

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (87)

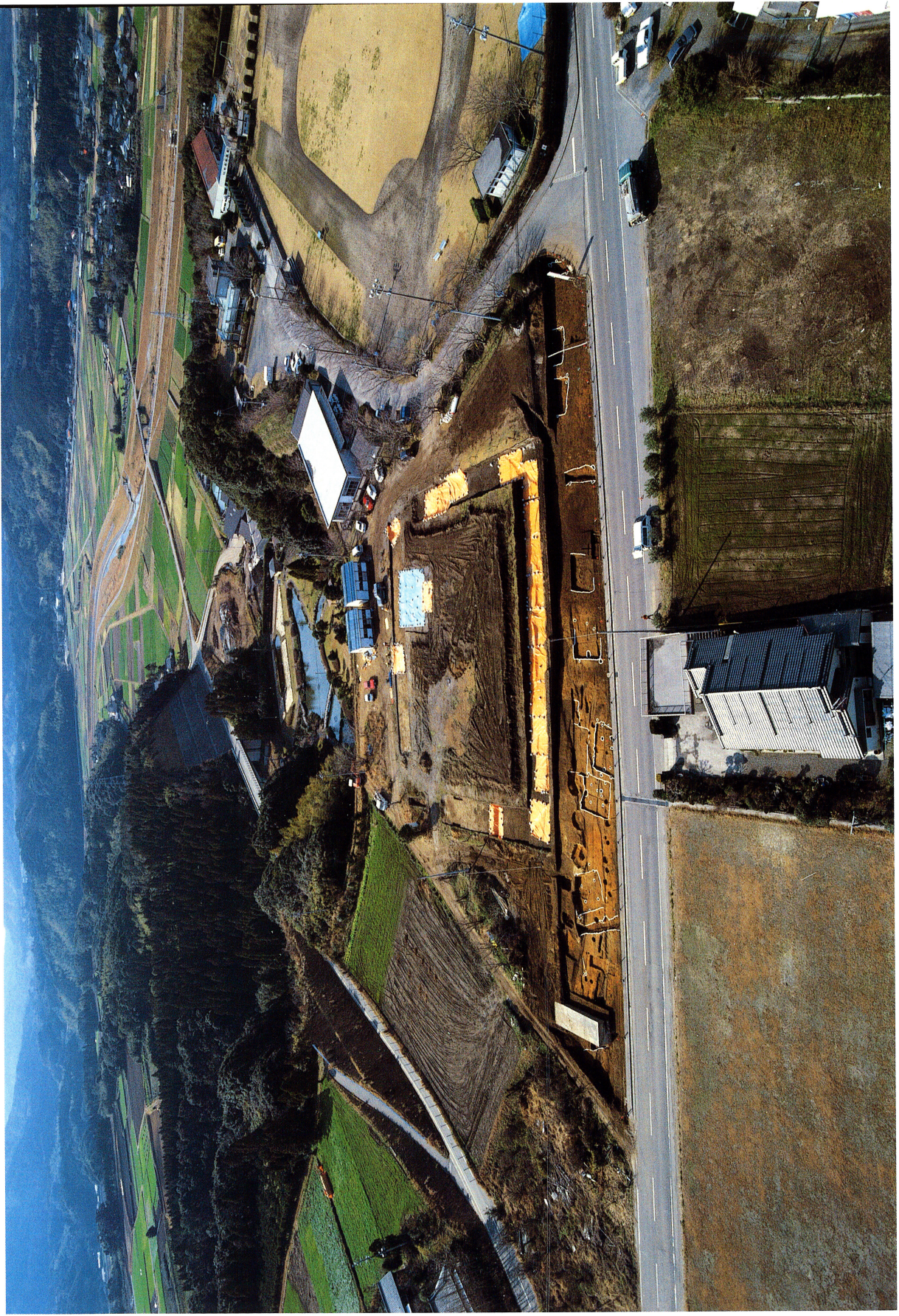
— 一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 I —

中尾遺跡

(鹿児島県肝属郡吾平町)

2005年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター



遺跡全景（平成3年度）



遺跡全景（平成5年度）



中尾遺跡出土土器



甑形土器



黒色土器

序 文

この報告書は、一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴って、鹿児島県教育庁文化課および鹿児島県立埋蔵文化財センターが平成3年度から平成7年度にかけて実施した中尾遺跡の発掘調査の記録です。

中尾遺跡は、鹿児島県の東部、大隅半島の肝属郡吾平町上名に所在します。

今回の調査では、縄文時代早期と縄文時代晩期、古墳時代など各時代の遺構・遺物が発見されました。

なかでも、古墳時代の竪穴住居跡群や溝状遺構、あるいはこれらの遺構に伴って出土した甗などの土器、鈴等の鉄製品は、南九州における古墳時代集落の様相を研究するうえで貴重な資料を提供したものと考えます。

本報告書が十分に活用され、大隅半島における考古学や歴史研究、埋蔵文化財の啓発・普及の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたって御協力いただいた県土木部道路建設課、吾平町教育委員会をはじめ、関係各機関および地元の方々に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

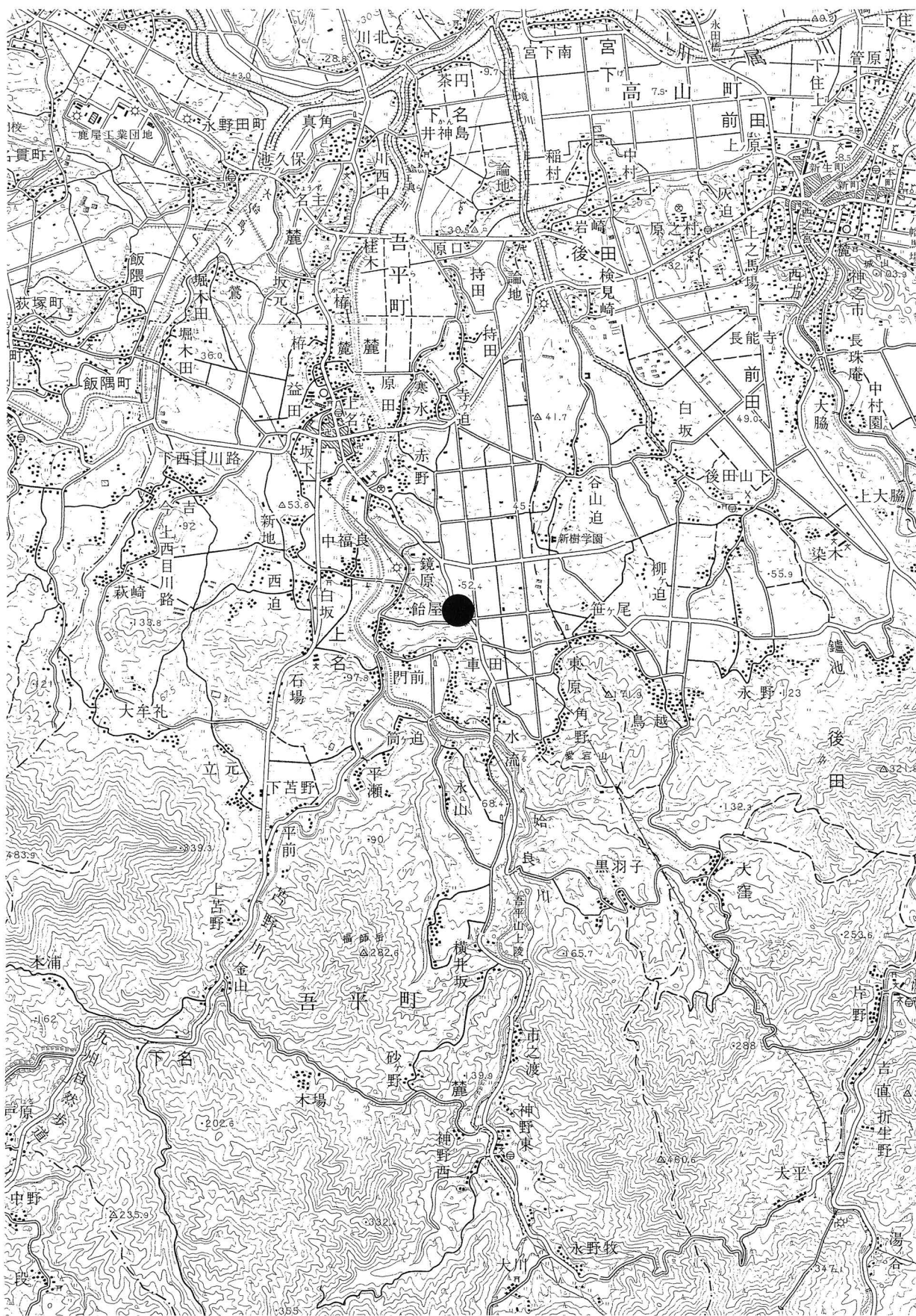
鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 長 木 原 俊 孝

報 告 書 抄 録

| | |
|--------|---|
| ふりがな | なかおいせき |
| 書名 | 中尾遺跡 |
| 副書名 | 一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | I |
| シリーズ名 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 87 |
| 編集者名 | 三垣 恵一 |
| 編集機関 | 鹿児島県立埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒899-4461 鹿児島県国分市上之段1175番地1 TEL0995-48-5811 |
| 発行年月日 | 西暦2005年3月31日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 。、” | 東経 。、” | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
|----------------|---|-------|-------|-------------------|--------------------|--|--------------------------|-------------------------------------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| なかおいせき 中尾遺跡 | かごしまけんきもつきぐん 鹿児島県肝属郡 あいらちやうかんみやう 吾平町上名 あぎなかお 字中尾 | 46485 | 75-47 | 31度 18分 37秒 | 130度 54分 46秒 | 19910723 ～ 19910809 19910819 ～ 19920131 | 確・本調査 3,600 | 一般地方 道折生野 ・神野・ 吾平線改 良事業 |
| | | | | | | 19930824 ～ 19931102 | 本調査 3,000 | |
| | | | | | | 19940726 ～ 19940826 | 本調査 1,200 | |
| | | | | | | 19950522 ～ 19950714 | 本調査 1,000 確認 60 | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|-------|-----|--|---|---|--|
| 中尾遺跡 | 集落跡 | 縄文時代早期 縄文時代前期 縄文時代晩期 古墳時代 古代 | 集石 8基 土坑 3基 竪穴住居跡22軒 溝状遺構 4条 古道 | 吉田式土器・下剥峯式土器・石坂式土器・打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・敲石・石皿・礫器・剥片・チップ 深浦式土器 刻目突帯文土器・孔列文土器・組織痕土器等 磨製石斧・打製石斧・スクレイパー・磨石・敲石・石皿・剥片等 成川式土器・平瓶・砥石・敲石・鉄鏃・鉄製鎌・刀子・鉄製鈴等 | 古墳時代の集落跡である。 調査後の遺跡調査範囲については消滅。 県道神野・折生野・吾平線を挟む部分については遺跡が残存する。 |



中尾遺跡位置図 (1/50,000)

例 言

- 1 本報告書は「一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業」に伴う中尾遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。なお、県教育委員会主体での中尾遺跡の発掘調査は、平成3年度および平成5年度から平成10年度の7か年にわたって実施したが、本報告は、平成3年度および平成5年度から平成7年度の4か年分の発掘成果をまとめたものである。
- 2 発掘調査は、鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所）から鹿児島県教育委員会が受託し、鹿児島県教育庁文化課（平成3年度）及び鹿児島県立埋蔵文化財センター（平成5～7年度）が担当した。当該年度分の整理作業および報告書作成は、平成15年度および平成16年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて実施した。
- 3 発掘調査については、鹿児島県土木部（鹿屋土木事務所道路建設課）や吾平町教育委員会の協力を得た。
- 4 遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・表・図版の番号はすべて一致する。
- 5 挿図の縮尺は各図面に示した。
- 6 本書で用いたレベル数値はすべて海拔絶対高である。
- 7 遺物出土層を表すローマ数字は、遺跡の調査範囲が広く、地層の残存状況に違いが認められたこともあって年度ごとの分層に差違が生じたため、本文中では縄文時代早期遺物の出土層をⅦ層、縄文晩期～古墳時代遺物の出土層はⅣa層として統一した。日誌抄については調査時の表記、遺物観察表については注記したローマ数字をそのまま付した。
- 8 発掘調査における図面の作成及び写真の撮影は、鶴田静彦・大久保浩二・宮田栄二・湯之前尚が行い、中村耕治・倉元良文・堂込秀人・中村和美の協力を得た。
- 9 遺構実測図の浄書及び出土遺物の実測・浄書は整理作業員の協力を得て整理担当者が行った。出土遺物の写真撮影は、鶴田静彦・横手浩二郎が担当した。
- 10 本書の執筆及び編集は三垣が担当した。
- 11 出土した遺物は、県立埋蔵文化財センターが一括して保管し、展示・活用する予定である。なお、本遺跡の遺物注記の略号は「ナカオ」である。

凡 例

1 遺 構

- (1) 遺構図の縮尺は、基本的に縄文時代の集石が1/20・土坑1/40、古墳時代の竪穴住居跡1/40・溝状遺構は1/20、または1/40で掲載している。遺構位置図については縮尺をそれぞれに付した。
- (2) 竪穴住居跡のうち、住居の全体規模が把握できるものについては、遺物出土状況や遺物分布、完掘状況をそれぞれ別途に図化し掲載している。部分的な検出にとどまった住居跡については遺物密度などによって作成する図を分けた。
- (3) 竪穴住居跡の焼土域についてはその部分をスクリーントーンで表現している。
- (4) 古墳時代の竪穴住居跡における出土遺物分布図の記号は、●が土器（須恵器を含む）、○が石器、▲が微粒の炭化物、☆が鉄器を表す。●のみで表現している場合は、遺物の種別の区分を行わず、すべての遺物を表現していることを示す。
また、住居跡によっては床着遺物やそれに近い状態で出土した遺物を中心に出土状況を図化している場合と、遺物分布図においては出土遺物をすべて図化しているものもあり、各住居跡によって遺物出土状況図と遺物分布図の遺物数は必ずしも一致しない場合がある。
- (5) 遺物出土分布図の断面に投影されているドットは、出土した遺物をすべて見通している場合と断面線から半分を見通している場合がある。
- (6) 住居跡の遺構番号については調査時に付されたものに準じた。
- (7) 溝状遺構4号については、各年度ごとに各調査区において溝状遺構4～6号として調査したものが接続したため、1条として扱っている。

2 土 器

- (1) 土器については、縄文時代・古墳時代ともに一部を除き基本的に1/3で掲載し、縮尺が異なる場合は、各図面に示した。
- (2) 顔料が塗布された土器については、その部分についてスクリーントーンで表現している。

3 石 器

- (1) 石器の縮尺は、基本的に打製石鏃・石匙・スクレイパーなどの剥片石器が3/4、磨製石

斧・打製石斧・礫器・磨敲石類を1／3，石皿は1／4で掲載している。

- (2) 磨敲石類・石皿・砥石の使用面（磨面）は白抜き，礫面（自然面）をドット，明瞭な擦痕については実線で表現している。
- (3) 石器観察表の計測値で（ ）書きのものは，欠損品の残存部における数値である。
- (4) 遺物観察表におけるの石材の略号や，石材の色調および利用されている器種については以下に示す表の通りである。

| 石材略号 | 名 称 | 色 調 | 器 種 |
|------|------------|------------|-----------------|
| A n | 安山岩（サヌカイト） | 灰色～暗灰色 | 打製石鏃・石匙 |
| O b | 黒曜石 | 黒色（半透明） | 打製石鏃 |
| C c | 玉髄 | 淡黄色 | スクレイパー |
| C h | チャート | 暗緑灰色～明黄褐色 | 打製石鏃 |
| S a | 砂岩 | 灰色・黄灰色・淡黄色 | 磨製石斧・敲石・楔形石器・石錘 |
| P a | 輝石安山岩 | 灰色 | 楔形石器・石皿 |
| P g | 花崗岩 | 淡黄白色 | 磨敲石類 |
| J a | 蛇紋岩 | 緑灰色 | 磨製石斧 |

3 鉄製品

- (1) 鉄製品についてはすべて1／2で掲載している。表面に残存するサビについては表現せず，鉄製品の外形からはみ出す場合にのみサビの輪郭を図化している。

本文目次

第 I 章 発掘調査の経過……………1
第 1 節 調査に至るまでの経過……………1
第 2 節 調査の組織……………1
第 3 節 調査の経過……………3
第 II 章 遺跡の位置と環境……………9
第 1 節 地理的環境……………9
第 2 節 歴史的環境……………9
第 III 章 発掘調査の概要……………15
第 1 節 発掘調査の方法……………15
第 2 節 発掘調査成果の概要……………15
第 3 節 遺跡の層位……………17
第 IV 章 発掘調査の成果……………23
第 1 節 VII 層の調査(縄文時代早期) ……23
1 検出遺構……………23
2 出土遺物……………28
(1) 土 器……………28
(2) 石 器 ……40
第 2 節 IV 層の調査(縄文時代中期～晩期) 49
1 検出遺構……………49
2 出土遺物……………52
(1) 土 器……………52
(2) 石 器……………62
第 3 節 IV 層の調査(古墳時代) ……67
1 検出遺構 ……67
(1) 竪穴住居跡……………67
(2) 溝状遺構 ……115
2 出土遺物 ……123
第 IV 章 発掘調査のまとめ ……145
第 1 節 縄文時代 ……145
第 2 節 古墳時代 ……145

挿図目次

第 1 図 中尾遺跡位置図
第 2 図 周辺遺跡位置図……………12
第 3 図 中尾遺跡基本土層図……………17
第 4 図 土層断面図 1 ……18
第 5 図 土層断面図 2 ……19
第 6 図 土層断面図 3 ……20
第 7 図 調査区域全体図……………21
第 8 図 調査用グリッド・確認調査トレンチ位置図1 ……21
第 9 図 調査用グリッド・確認調査トレンチ位置図2 ……22
第10図 VII層上面検出集石位置図……………24
第11図 集石 1 ……24
第12図 集石 2 ……25
第13図 集石 3 号出土土器……………25
第14図 集石 3 ……26
第15図 集石 4 ……27
第16図 VII層出土土器 1 ……29
第17図 VII層出土土器 2 ……30
第18図 VII層出土土器 3 ……31
第19図 VII層出土土器 4 ……33
第20図 VII層出土土器 5 ……34
第21図 VII層出土土器 6 ……35
第22図 VII層出土土器 7 ……36
第23図 VII層出土土器 8 ……37
第24図 VII層出土土器 9 ……38
第25図 VII層出土土器10……………39
第26図 VII層出土石器 1 ……40
第27図 VII層出土石器 2 ……41
第28図 VII層出土石器 3 ……42
第29図 VII層出土石器 4 ……43
第30図 VII層出土石器 5 ……44
第31図 VII層出土石器 6 ……45
第32図 VII層出土石器 7 ……46
第33図 IV b 層上面検出出土坑位置図……………49
第34図 土坑 1 号……………50
第35図 土坑 1 号出土遺物……………50
第36図 組織痕土器……………50
第37図 土坑 2・3 号……………51

| | | | | | |
|------|---------------------|----|-------|---------------------|-----|
| 第38図 | IV層出土土器 1 | 53 | 第78図 | 竪穴住居跡 9号遺物出土状況 | 87 |
| 第39図 | IV層出土土器 2 | 54 | 第79図 | 竪穴住居跡 9号出土遺物 1 | 88 |
| 第40図 | IV層出土土器 3 | 55 | 第80図 | 竪穴住居跡 9号出土遺物 1 | 88 |
| 第41図 | IV層出土土器 4 | 56 | 第81図 | 竪穴住居跡 9号出土遺物 2 | 89 |
| 第42図 | IV層出土土器 5 | 57 | 第82図 | 竪穴住居跡 9号完掘状況 | 90 |
| 第43図 | IV層出土土器 6 | 58 | 第83図 | 竪穴住居跡10号遺物出土状況 | 92 |
| 第44図 | IV層出土土器 7 | 60 | 第84図 | 竪穴住居跡10号出土遺物 | 93 |
| 第45図 | IV層出土土器 8 | 61 | 第85図 | 竪穴住居跡11号遺物出土状況 | 94 |
| 第46図 | IV層出土石器 1 | 62 | 第86図 | 竪穴住居跡11号出土遺物 1 | 94 |
| 第47図 | IV層出土石器 2 | 63 | 第87図 | 竪穴住居跡11号出土遺物 2 | 96 |
| 第48図 | IV層出土石器 3ほか | 64 | 第88図 | 竪穴住居跡13号遺物出土状況 | 97 |
| 第49図 | IV～VI層上面検出遺構位置図 | 68 | 第89図 | 竪穴住居跡13号出土遺物 | 98 |
| 第50図 | 竪穴住居跡 1号遺物出土状況 | 69 | 第90図 | 竪穴住居跡14号遺物出土状況 | 99 |
| 第51図 | 竪穴住居跡 1号遺物分布図 | 70 | 第91図 | 竪穴住居跡14号出土遺物 | 100 |
| 第52図 | 竪穴住居跡 1号出土遺物 1 | 70 | 第92図 | 竪穴住居跡16号遺物出土状況 | 101 |
| 第53図 | 竪穴住居跡 1号出土遺物 2 | 71 | 第93図 | 竪穴住居跡16号出土遺物 | 101 |
| 第54図 | 竪穴住居跡 1号完掘状況 | 71 | 第94図 | 竪穴住居跡17号遺物出土状況 | 102 |
| 第55図 | 竪穴住居跡 2号遺物分布図 | 72 | 第95図 | 竪穴住居跡17号出土遺物 | 103 |
| 第56図 | 竪穴住居跡 2号出土遺物 1 | 72 | 第96図 | 竪穴住居跡18号遺物出土状況 | 104 |
| 第57図 | 竪穴住居跡 2号出土遺物 2 | 73 | 第97図 | 竪穴住居跡18号遺物分布図 | 105 |
| 第58図 | 竪穴住居跡 2号完掘状況 | 74 | 第98図 | 竪穴住居跡18号出土遺物 | 106 |
| 第59図 | 竪穴住居跡 3号遺物出土状況 | 75 | 第99図 | 竪穴住居跡18号完掘状況 | 107 |
| 第60図 | 竪穴住居跡 3号出土遺物 1 | 75 | 第100図 | 竪穴住居跡19号遺物分布図 | 108 |
| 第61図 | 竪穴住居跡 3号出土遺物 2 | 76 | 第101図 | 竪穴住居跡19号出土遺物 | 109 |
| 第62図 | 竪穴住居跡 4号遺物出土状況 | 76 | 第102図 | 竪穴住居跡19号完掘状況 | 110 |
| 第63図 | 竪穴住居跡 4号遺物分布図 | 77 | 第103図 | 竪穴住居跡21号遺物分布図・完掘状況 | 111 |
| 第64図 | 竪穴住居跡 4号出土遺物 1 | 77 | 第104図 | 竪穴住居跡21号出土遺物 | 111 |
| 第65図 | 竪穴住居跡 4号出土遺物 2 | 78 | 第105図 | 竪穴住居跡22号遺物分布図・出土遺物1 | 112 |
| 第66図 | 竪穴住居跡 4号完掘状況 | 78 | 第106図 | 竪穴住居跡22号出土遺物 2 | 112 |
| 第67図 | 竪穴住居跡 5号遺物出土状況 | 79 | 第107図 | 竪穴住居跡22号出土遺物 2 | 113 |
| 第68図 | 竪穴住居跡 5号遺物分布図 | 80 | 第108図 | 竪穴住居跡22号完掘状況 | 114 |
| 第69図 | 竪穴住居跡 5号出土遺物 | 80 | 第109図 | 竪穴住居跡23号遺物出土状況 | 115 |
| 第70図 | 竪穴住居跡 5号完掘状況 | 81 | 第110図 | 竪穴住居跡23号出土遺物 | 116 |
| 第71図 | 竪穴住居跡 6号遺物出土状況・出土遺物 | 82 | 第111図 | 溝状遺構 1号 | 118 |
| 第72図 | 竪穴住居跡 7号完掘状況 | 83 | 第112図 | 溝状遺構 2・3号 | 119 |
| 第73図 | 竪穴住居跡 8号遺物出土状況 | 83 | 第113図 | 溝状遺構 1・2・3号出土遺物 | 120 |
| 第74図 | 竪穴住居跡 8号遺物分布図 | 84 | 第114図 | 溝状遺構 4号・古道位置図 | 122 |
| 第75図 | 竪穴住居跡 8号出土遺物 1 | 84 | 第115図 | 溝状遺構 4号遺物出土状況 | 122 |
| 第76図 | 竪穴住居跡 8号出土遺物 2 | 85 | 第116図 | 溝状遺構 4号出土遺物 1 | 125 |
| 第77図 | 竪穴住居跡 8号完掘状況 | 86 | 第117図 | 溝状遺構 4号出土遺物 2 | 126 |

| | | |
|-------|---------------|-----|
| 第118図 | 溝状遺構 4号出土遺物 3 | 127 |
| 第119図 | 溝状遺構 4号出土遺物 4 | 128 |
| 第120図 | 溝状遺構 4号出土遺物 5 | 129 |
| 第121図 | 溝状遺構 4号出土遺物 6 | 130 |
| 第122図 | 溝状遺構 4号出土遺物 7 | 131 |
| 第123図 | 溝状遺構 4号出土遺物 8 | 132 |
| 第124図 | Ⅳ層出土土器 1 | 133 |
| 第125図 | Ⅳ層出土土器 2 | 134 |
| 第126図 | Ⅳ層出土土器 3 | 135 |
| 第127図 | Ⅳ層出土土器 4 | 136 |
| 第128図 | Ⅳ層出土土器 5 | 137 |
| 第129図 | Ⅳ層出土土器 6 | 138 |
| 第130図 | Ⅳ層出土土器 7ほか | 139 |

表目次

| | | |
|------|-------------------------------------|-----|
| 第1表 | 一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧 1 | |
| 第2表 | 一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧 2 | |
| 第3表 | 周辺遺跡地名表(1) | 13 |
| 第4表 | 周辺遺跡地名表(2) | 14 |
| 第5表 | 確認調査の概要 | 16 |
| 第6表 | 集石 3号出土土器観察表 | 25 |
| 第7表 | 遺構観察表(集石) | 27 |
| 第8表 | Ⅶ層出土土器観察表 1 | 47 |
| 第9表 | Ⅶ層出土土器観察表 2 | 48 |
| 第10表 | Ⅶ層出土石器観察表 | 48 |
| 第11表 | 遺構観察表(土坑) | 51 |
| 第12表 | 土坑 1号出土遺物観察表 | 50 |
| 第13表 | Ⅳ層出土土器(縄文中期～晩期)観察表 1 | 65 |
| 第14表 | Ⅳ層出土土器(縄文晩期)観察表 2 | 66 |
| 第15表 | Ⅳ層出土石器(縄文後期～古墳)観察表 | 66 |
| 第16表 | 遺構内出土遺物観察表 1 | 140 |
| 第17表 | 遺構内出土遺物観察表 2 | 141 |
| 第18表 | 遺構内出土遺物観察表 3 | 142 |
| 第19表 | Ⅳ層出土遺物(古墳)観察表 1 | 143 |
| 第20表 | Ⅳ層出土遺物(古墳ほか)観察表 2 | 144 |

図版目次

| | | |
|------|-------------------|-----|
| 図版 1 | 遺跡全景(平成 3 年度) | 149 |
| 図版 2 | 遺跡全景(平成 5 年度) | 150 |
| 図版 3 | 遺跡全景(平成 7 年度) | 151 |
| 図版 4 | ①・②Ⅶ層(縄文早期)遺物出土状況 | 152 |
| | ③集石 1号 | |
| | ④集石 1号(本体部) | |
| | ⑤集石 1号(かきだし部) | |
| 図版 5 | ①集石 7号 | 153 |
| | ②集石 3号断面 | |
| | ③集石 2号 | |
| 図版 6 | Ⅶ層出土土器 1 (Ⅰ・Ⅱ類) | 154 |
| 図版 7 | Ⅶ層出土土器 2 (Ⅲ・Ⅳ類) | 155 |
| 図版 8 | Ⅶ層出土土器 3 (Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ類) | 156 |
| 図版 9 | Ⅶ層出土土器 4 (Ⅶ類) | 157 |
| 図版10 | Ⅶ層出土土器 5 (底部) | 158 |
| 図版11 | Ⅶ層出土土器 6 (Ⅸ・Ⅹ類ほか) | 159 |
| 図版12 | Ⅶ層出土石器 1 | 160 |
| 図版13 | Ⅶ層出土石器 2 | 161 |
| 図版14 | Ⅶ層出土石器 3 | 162 |
| 図版15 | Ⅳ層(縄文時代晩期)遺物出土状況 | 163 |
| 図版16 | ①土坑 1号上面遺物出土状況 | 164 |
| | ②土坑 1号石鏃出土状況 | |
| | ③土坑 1号完掘状況 | |
| 図版17 | Ⅳ層出土土器 1 | 165 |
| 図版18 | Ⅳ層出土土器 2 | 166 |
| 図版19 | Ⅳ層出土土器 3 | 167 |
| 図版20 | Ⅳ層出土土器 4 | 168 |
| 図版21 | Ⅳ層出土土器 5 | 169 |
| 図版22 | Ⅳ層出土石器 1 | 170 |
| 図版23 | Ⅳ層出土土器 2ほか | 171 |
| 図版24 | 竪穴住居跡群 | 172 |
| | ①平成 3 年度 | |
| | ②平成 5 年度 | |
| | ③平成 7 年度 | |
| 図版25 | ①遺跡近景(北から) | 173 |
| | ②遺跡近景(南から) | |
| 図版26 | ①・②竪穴住居跡 1号 | 174 |

| | | | |
|------|--------------------------|------|------------------------|
| 図版27 | ①・②竪穴住居跡1号遺物出土状況…175 | 図版45 | ①竪穴住居跡19号 ……193 |
| 図版28 | ①竪穴住居跡2号 ……176 | | ②同19号完掘状況 |
| | ②同2号遺物出土状況 | 図版46 | ①竪穴住居跡21号 ……194 |
| 図版29 | 竪穴住居跡2号遺物出土状況 ……177 | | ②同21号遺物出土状況 |
| 図版30 | ①竪穴住居跡3号 ……178 | | ③同21号完掘状況 |
| | ②同4号鉄器出土状況 | 図版47 | ①竪穴住居跡22号検出状況 ……195 |
| | ③同3号遺物出土遺物出土状況 | | ②・③同22号遺物出土状況 |
| 図版31 | ①竪穴住居跡4号・同4号断面 ……179 | 図版48 | ①竪穴住居跡22号遺物出土状況 ……196 |
| 図版32 | ①竪穴住居跡5号 ……180 | | ②同22号遺物出土状況(土坑内) |
| | ②同5号遺物出土状況(土坑内) | | ③同22号完掘状況 |
| 図版33 | ①竪穴住居跡6号 ……181 | 図版49 | ①竪穴住居跡23号検出状況 ……197 |
| | ②同6号断面 | 図版50 | 溝状遺構1号 ……198 |
| | ③同6号遺物出土状況(土坑内) | 図版51 | ①溝状遺構2号・②同2号断面 ……199 |
| 図版34 | ①竪穴住居跡7号 ……182 | 図版52 | ①溝状遺構3号・溝状遺構検出風景…200 |
| | ②竪穴住居跡8号 | 図版53 | 溝状遺構4号 ……201 |
| | ③同8号断面 | 図版54 | ①・②溝状遺構4号遺物出土状況 |
| 図版35 | ①竪穴住居跡9号 ……183 | | ③同4号鉄製鈴出土状況 ……202 |
| | ②竪穴住居跡9号(奥)・10号(手前) | 図版55 | ①・②・③溝状遺構4号遺物出土状況…203 |
| 図版36 | ①竪穴住居跡10号 ……184 | 図版56 | ①・②古道検出状況 ……204 |
| | ②同10号遺物出土状況(甑) | 図版57 | 竪穴住居跡1・2号出土土器 ……205 |
| | ③同10号遺物出土状況 | 図版58 | 竪穴住居2・4・5・8号出土土器…206 |
| 図版37 | ①竪穴住居跡13号(左) ……185 | 図版59 | 竪穴十強跡8・9・11号出土土器…207 |
| | ②竪穴住居跡9(左奥)・11(右)・10号(左) | 図版60 | 竪穴住居跡10・13・16号出土土器…208 |
| 図版38 | ①竪穴住居跡13号 ……186 | 図版61 | 竪穴住居跡18・19・21号出土土器…209 |
| | ②竪穴住居跡14号(手前) | 図版62 | 竪穴住居跡出土土器 ……210 |
| 図版39 | ①幻の15号遺物出土状況 ……187 | 図版63 | 竪穴住居跡出土石器 ……211 |
| | ②竪穴住居跡16号(奥)・17号(手前) | 図版64 | 溝状遺構1・2・3・4号出土土器 ……212 |
| | ③同16号 | 図版65 | 溝状遺構4号出土土器 ……213 |
| | ④同16号須恵器出土状況 | 図版66 | 溝状遺構4号出土土器 ……214 |
| | ⑤同16号遺物出土状況 | 図版67 | 溝状遺構4号出土土器 ……215 |
| 図版40 | ①竪穴住居跡17号 ……188 | 図版68 | 溝状遺構出土遺物ほか ……216 |
| | ②同17号遺物出土状況 | 図版69 | IV層出土遺物1 ……217 |
| 図版41 | ①竪穴住居跡17号炭化物出土状況…189 | 図版70 | IV層出土遺物2 ……218 |
| | ②同17号土層断面 | 図版71 | IV層出土遺物3ほか ……219 |
| 図版42 | 竪穴住居跡18号と溝状遺構4号 ……190 | 図版72 | 鉄製品①鉄製鈴・②鉄製鈴X線写真…220 |
| 図版43 | ①竪穴住居跡18号(南から) ……191 | | ③鉄鎌・刀子・鉄鎌ほか |
| | ②同18号(北から) | | |
| 図版44 | ①・②竪穴住居跡18号遺物出土状況…192 | | |
| | ③・④竪穴住居跡18号中央土坑 | | |
| | ⑤竪穴住居跡18号完掘状況 | | |

第 I 章 発掘調査の経過

第 1 節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、文化財の保護・活用を図るため、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無およびその取り扱いについて協議し、諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所道路建設課）は、「一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業」の計画に基づいて、肝属郡吾平町上名地区に計画した道路改良工事に先立って、対象地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化課（組織改革により平成 8 年度より文化財課と改称。）に照会した。

この結果、事業区間内には周知の遺跡である中尾遺跡が所在することが判明し、平成 3 年度に県道拡幅部分について緊急発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は県文化課が担当した。その結果、遺跡が縄文時代早期から古墳時代にかけての複合遺跡であることや遺跡の範囲が現県道の下部までひろがることが確認された。

そこで、平成 4 年度に鹿児島県土木部・県文化課・鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）の三者で再度協議を行い、当事業区間内においては現状保存や設計変更が不可能なことから、平成 5 年度以降、計画的かつ継続して発掘調査（確認・本調査）を実施し、発掘調査は埋文センターが担当することとした。

県教育委員会全体の調査は、平成 3 年度、平成 5 年度から平成 10 年度の計 7 か年にわたって実施した。調査総面積は計 8,860㎡である。本調査終了後、平成 3 年度および平成 5 年から平成 7 年度の調査成果については、平成 15 年度および平成 16 年度に埋文センターにおいて整理作業・報告書作成作業を行った。

第 2 節 調査の組織

確認・本調査（平成 3 年度）

起回事業主体 鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所道路建設課）

調査主体者 鹿児島県教育委員会 教 育 長 大 田 務

調査企画調整 鹿児島県教育庁文化課

調査責任者 鹿児島県教育庁文化課 文 化 財 課 長 向 山 勝 貞

調査企画者 〃 文 化 財 課 長 補 佐 濱 松 巖

〃 〃 主 任 文 化 財 研 究 員

〃 〃 兼 埋 蔵 文 化 財 係 長 吉 元 正 幸

調査担当者 〃 文 化 財 研 究 員 鶴 田 静 彦

〃 〃 文 化 財 研 究 員 湯 之 前 尚

事務担当者 〃 主 幹 兼 企 画 助 成 係 長 濱 崎 琢 也

〃 〃 主 査 枇 杷 雄 二

〃 〃 主 事 新 屋 敷 由 美 子

確認・本調査（平成5年度～平成7年度）

起因事業主体者 鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所道路建設課）

調査主体者 鹿児島県教育委員会

調査企画調整 鹿児島県教育庁文化課

| | | | |
|-------|-------------|--------------|----------------|
| 調査責任者 | 県立埋蔵文化財センター | 所 長 | 大久保 忠 昭 (H5) |
| | 〃 | | 内 村 正 弘 (H6～7) |
| 調査企画者 | 〃 | 次長兼総務課長 | 水 口 俊 雄 (H5) |
| | 〃 | | 川 原 信 義 (H6～7) |
| | 〃 | 主任文化財主事兼調査課長 | 戸 崎 勝 洋 (H5～7) |
| | 〃 | 主任文化財主事 | 新 東 晃 一 (H7) |
| 調査担当者 | 〃 | 文化財研究員 | 鶴 田 静 彦 (H5～6) |
| | 〃 | 〃 | 大久保 浩 二 (H5～6) |
| | 〃 | 文化財主事 | 宮 田 栄 二 (H7) |
| | 〃 | 文化財研究員 | 湯之前 尚 (H7) |
| 事務担当者 | 〃 | 主 査 | 成 尾 雅 明 (H6～7) |
| | 〃 | 主 事 | 中 村 和 代 (H6) |
| | 〃 | 〃 | 追 立 ひとみ (H7) |
| 調査指導者 | 鹿児島県考古学会 | 会 長 | 河 口 貞 徳 (H5～7) |

整理・報告書作成（平成15・16年度）

起因事業主体者 鹿児島県土木部道路建設課（鹿屋土木事務所道路建設課）

作成主体者 鹿児島県教育委員会

企画調整 鹿児島県教育庁文化課

| | | | |
|-------|-------------|----------------|--------------------|
| 作成責任者 | 県立埋蔵文化財センター | 所 長 | 木 原 俊 孝 (H15～16) |
| 作成企画者 | 〃 | 次長兼総務課長 | 田 中 文 雄 (H15) |
| | 〃 | 〃 | 賞 雅 彰 (H16) |
| | 〃 | 調 査 課 長 | 新 東 晃 一 (H15～16) |
| | 〃 | 調 査 課 長 補 佐 | 立 神 次 郎 (H15～16) |
| | 〃 | 主任文化財主事兼第一調査係長 | 池 畑 耕 一 (H15～16) |
| | 〃 | 主任文化財主事 | 中 村 耕 治 (H15～16) |
| 作成担当者 | 〃 | 主任文化財主事兼第一調査係長 | 池 畑 耕 一 (H16) |
| | 〃 | 文化財主事 | 宗 岡 克 英 (H15) |
| | 〃 | 〃 | 三 垣 恵 一 (H16) |
| | 〃 | 文化財研究員 | 上 床 真 (H15) |
| 事務担当者 | 〃 | 総 務 係 長 | 平 野 浩 二 (H15～16) |
| | 〃 | 主 査 | 福 山 恵 一 郎 (H15～16) |
| 企画委員 | 〃 | 主任文化財主事 | 中 村 耕 治 (H16) |

企画委員 県立埋蔵文化財センター 文化財主事 鶴田 静彦 (H16)
報告書作成検討委員会 平成16年12月24日 所長ほか 7名
報告書作成指導委員会 平成16年12月27日 課長ほか 8名

第3節 調査の経過

発掘調査は、平成3年7月23日～8月9日、同8月19日～平成4年1月31日、平成5年8月24日～11月2日、平成6年7月26日～8月26日、平成7年5月22日～7月14日にかけて実施した。以下、年度ごとに日誌抄をもって調査の経過を略述する。

平成3年度

○平成3年7月23～7月26日（金）

5～8トレンチ配置図作成。

○7月29日（月）～8月2日（金）

1～3トレンチ配置図作成。1トレンチのⅡ・Ⅲ層出土遺物平板実測（No.1～20）。2トレンチ検出遺構平板実測。

○8月5日（月）～8月9日（金）

5・6トレンチのⅢ層出土遺物平板実測（No.21～66）

○8月19日（月）～8月23日（金）

N-40～41区のⅢ層出土遺物平板実測（No.67～233）

○8月26日（月）～8月30日（金）

N-39～41区のⅢa層出土遺物平板実測（No.234～410）。溝状遺構1・2の平面実測。

○9月2日（月）～9月6日（金）

M～N-32～39区のⅢ層出土遺物平板実測（No.411～882）。

○9月9日（月）～9月13日（金）

M-36～38区のⅢ層出土遺物平板実測（No.883～924）

○9月16日（月）～9月20日（金）

M-34～35区のⅢ層出土遺物平板実測（No.925～1063）。M-37～38区の古道実測。

9月19日台風接近により作業中止。

○9月23日（月）～9月27日（金）

瀬戸口望氏来跡（25日）。

○9月30日（月）～10月4日（金）

M-30～35、M～N-37～41区のⅢ層出土遺物平板実測（No.1064～1327）。

河口貞徳先生（鹿児島県考古学会会長）現地指導（9月30日～10月1日）。

中尾Ⅱ遺跡調査開始。（10月3日～10月18日）

○10月7日（月）～10月11日（金）

M-28～29区のⅢ層出土遺物平板実測（No.1328～1397）

○10月14日（月）～10月18日（金）

M-27・N-38～41区のⅢ層出土遺物平板実測（No.1398～1477）。12～13トレンチ配置図作成。

N-39区のⅢ層土器出土状況実測。

○10月21日（月）～10月25日（金）

N-39区のⅣ層土器出土状況実測。

○10月28日（月）～11月1日（金）

M-30区のⅥ層出土遺物平板実測（No.1478～1489）。M-30区の土層断面実測。

瀬戸口望氏来跡。（1日）

○11月5日（火）～11月8日（金）

M～N-25～29区のⅣ・Ⅵ層出土遺物平板実測（No.1490～1662）。Ⅵ層上面コンタ図作成。

○11月11日（月）～11月15日（金）

M-28～30区のⅥ層遺物出土状況（No.1663～1667）およびコンタ図平板実測。

○11月18日（月）～11月22日（金）

M-25区の土層断面実測。

○11月25日（月）～11月29日（金）

M-27～28区の土坑1・2平面実測。M～N-24～27区のⅥ層出土遺物平板実測（No.1594～1715）。集石7の平断面実測。N-25区の吉田武土器出土状況実測。

○12月2日（月）～12月6日（金）

集石6の平断面実測。M～N-23～24区のⅥ層出土遺物平板実測（No.1716～1788）。

○12月9日（月）～12月13日（金）

M-22～23区のⅦ層および溝状遺構1の出土遺物平板実測（No.1808～1818）。M-22～24区の土層断面実測。古道平面実測。

○12月16日（月）～12月20日（金）

古道の検出状況の平面実測。集石1の平断面実測。

○1月6日（月）～1月10日（金）

竪穴住居跡7，溝状遺構1・2・3，集石3の平断面実測。古道の平面実測。遺構配置図作成。

○1月13日（月）～1月17日（金）

溝状遺構4・古道検出状況実測。

○1月20日（月）～1月24日（金）

アカホヤ火山灰層上面検出遺構配置およびコンタ図作成。溝状遺構3・4の断面実測。溝内遺物出土状況実測。竪穴住居跡8・17の平断面実測。河口貞徳先生（鹿児島県考古学会会長）現地指導（22～23日）。

○1月27日（月）～1月31日（金）

竪穴住居跡12・16の平断面実測，古道の平面および遺物出土状況実測。瀬戸内望氏来跡（27日）。

平成5年度

○8月24日（火）～8月27日（金）

発掘機材の搬入，調査開始。O～P-13～14区の重機による表土除去，精査。池田火山灰層の腐植土層から古墳時代，縄文時代中期の土器出土。Ⅳa層まで掘り下げ。

○8月30日（月）～9月2日（木）

O～P-13～14区のⅢ層掘り下げ，出土遺物平板実測。O-14～15区の土層断面実測。台風対策

実施。

○9月6日(月)～9月10日(金)

台風通過後の復旧作業。鹿屋土木事務所・肝属土木事務所道路建設課と協議後、仮設道路の建設を実施。T～U-3, S～U-4, S～T-5区のアスファルト・砕石除去後、IV a層まで掘り下げ。竪穴住居跡の平面プラン1基を確認、鉄鏝出土。

○9月13日(月)～9月17日(金)

R-7区のアスファルト・砕石除去。U-4区の溝状遺構、竪穴住居跡の平面プランの検出作業。R～S-7～8区のⅢ層の掘り下げ。

○9月20日(月)～9月22日(水)

Q～R-8区の遺構検出作業。排水路及び客土の除去作業。雨水の流入防止対策実施。

○9月27日(月)～10月1日(金)

S～V-4～5区の精査、遺構検出作業。竪穴住居跡の隅丸方形プラン、溝状遺構を検出。遺構配置図作成、写真撮影。池田パミス層上面のコンタ図作成。溝状遺構2・4の掘り下げ、実測。溝状遺構4から鉄製鈴、竪穴住居跡8から須恵器が出土。古道2～4の平面実測。

○10月4日(月)

Q～P-9～10区の重機による表土剥ぎ。溝状遺構3・4の平断面、池田パミス層上面のコンタ図・遺構配置図作成。溝状遺構4の土器集中部断面実測。

○10月8日(金)

Q～P-9～10区および遺構の清掃。溝状遺構3の平断面実測。

○10月11日(月)～10月15日(金)

溝状遺構4の掘り下げ、P～Q-10区の重機による表土剥ぎ。河口貞徳先生(鹿児島県考古学会会長)現地指導(12～13日)。竪穴住居跡18の遺物出土状況実測。溝状遺構2の断面実測。

○10月18日(月)～10月22日(金)

溝状遺構4の掘り下げ、P～Q-9～10区の重機による表土剥ぎ。溝状遺構4の平面、遺物出土状況実測。N～O-13～14区、O～Q-10～12区の池田パミス層上面コンタ図作成。航空写真撮影(22日)。

○10月25日(月)～11月2日(火)

竪穴住居跡18の平面実測。発掘調査終了

平成6年度

○平成6年7月26日(火)～7月29日(金)

発掘調査開始。重機による表土剥ぎおよび間層除去。N-21～22区のⅦ層掘り下げ。貝殻条痕文系土器・打製石鏝等出土。

○8月2日(火)～8月5日(金)

N-22～27区のⅦ層掘り下げ、遺物出土状況写真撮影、平板実測(No.1～124)。N-31区までⅦ層上面の検出作業。

○8月8日(月)～8月11日(木)

N-26区の集石2の写真撮影、平断面実測。N-30区までⅦ層の検出作業。N-29～30区の掘り

下げ、出土遺物の取り上げ (No.266～541)。

○8月16日 (火) ～8月19日 (金)

N-22～24, 29～31区のⅦb層上面まで掘り下げ、コンタ図作成。重機によるN-28～35区のアスファルト除去およびⅢ層面の清掃。N-27～28区のⅦb層出土遺物平板実測 (No.542～555)。

○8月22日 (月) ～8月26日 (金)

N-33～35区の遺構検出作業。N-36・38区にトレンチ設定、N-36区から竪穴住居跡プラン検出。N-26・27区のⅦb層出土遺物平板実測 (No.573～633)。集石4の平断面実測。発掘調査終了。

平成7年度

○平成7年5月22日 (月) ～5月26日 (金)

確認調査の開始及び全面調査の準備。1～5トレンチを設定、掘り下げ開始。

1トレンチから竪穴住居跡、2トレンチ溝、3・5トレンチから土器・石器出土。1～3トレンチ写真撮影、平板実測 (No.1～129, 1175～1194)。

○5月30日 (火) ～6月2日 (金)

1～5BTの掘り下げ、土器・石器出土。写真撮影、平板実測 (Ⅲa層No.130～164, VI層144～182)。

1トレンチの竪穴住居跡写真撮影。重機による表土剥ぎ。

○6月5日 (月) ～6月9日 (金)

1・2・4トレンチの掘り下げ。M～N-36～37区の掘り下げ、前回の住居跡確認、旧トレンチ跡の掘り下げ。旧道路部分の掘り下げ。

○6月12日 (月) ～6月16日 (金)

M～N-36～37区のⅢ層掘り下げ。M～N-37～40区のⅢ層出土遺物平板実測 (No.165～620)。旧道路部分の掘り下げ。竪穴住居跡19の出土遺物取り上げ。

○6月19日 (月) ～6月22日 (木)

竪穴住居跡2の掘り下げ、竪穴住居跡19の出土遺物の取り上げ、断面実測。竪穴住居跡23のプラン検出。M～N-39～41区のⅢa層出土遺物の平板実測 (No.621～977)。

○6月26日 (月) ～6月30日 (金)

竪穴住居跡2・19・22・23の掘り下げ、出土遺物平板実測。竪穴住居跡21検出、写真撮影。1・2トレンチ出土遺物の平板実測 (No.978～1079)。航空写真撮影 (30日)。竪穴住居跡2・22・23の実測。

○7月3日 (月) ～7月7日 (金)

M～N-40～41区の重機による間層除去後、Ⅵ～Ⅶ層の掘り下げ。竪穴住居後23の写真撮影。竪穴住居後2・19の平面実測、掘り下げ。竪穴住居後21・22の遺物出土状況実測 (No.1395～1401)。1トレンチ検出の竪穴住居跡実測。N-40区のⅥ層出土遺物平板実測 (No.1402～1421)。集石8の平断面実測。

○7月10日 (月) ～7月14日 (金)

M～N-40～41区のⅥ層の掘り下げ。竪穴住居跡2・21の平板実測。竪穴住居跡1の床面ピット検出。1・3・5トレンチの土層断面実測。河口貞徳先生 (鹿児島県考古学会)・本田道輝先生 (鹿児島大学法文学部) 来跡 (12日)。トレンチの埋め戻し。発掘調査終了。

第1表 一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧1

| 遺跡名 | 年度 | 調査期間 | 調査面積 | 調査担当者 | 時代 | 遺構 | 遺物 | | |
|------|-----|---------------------------|-------------------------------|-------------------------|----------------------------------|---|--|--------------------------------------|-------|
| 中尾遺跡 | H3 | 7/23~8/9 8/19~1/31 | 確認調査 本調査 3,600㎡ | 鶴田 静彦 湯之前 尚 | 縄文早期 縄文前期 | 集石 8基 | 吉田式土器・下剥峯式土器・塞ノ神式土器 深浦式土器 黒川式土器・夜白式土器・組織痕土器・打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・成川式土器・打製石鏃・石斧・磨敲石・砥石・石皿・鉄製鈴 | 県 教 育 委 員 会 主 体 | |
| | H5 | 8/24~11/2 | 本調査 3,000㎡ | 鶴田 静彦 大久保浩二 | 縄文晩期 古墳 | 土坑 3基 竪穴住居跡22軒 | | | |
| | H6 | 7/26~8/26 | 本調査 1,200㎡ | 鶴田 静彦 大久保浩二 | 古代 | 溝状遺構 4条 古道 | | | |
| | H7 | 5/22~7/14 | 確認調査 60㎡ 本調査 1,000㎡ | 宮田 栄二 湯之前 尚 | | | | | |
| | H8 | 8/19~10/18 11/25~11/29 | 確認調査 280㎡ 本調査 1,200㎡ | 長野 眞一 肱岡 隆夫 中原 一成 | 縄文早期 古墳 | 集石 1基 地下式横穴墓 2基 竪穴住居跡 5軒 土壙 1基 | 土器・石鏃・石斧 鉄製太刀・鉄製刀子 成川式土器 | 会 主 体 | |
| | H9 | 4/21~7/11 | 確認調査 45㎡ 本調査 1,600㎡ | 中村 耕治 安藤 浩 黒川 忠広 | 縄文早期 縄文前期 縄文晩期 古墳 古代 | 集石12基 集石 2基 溝状遺構 土坑 | 下剥峯式土器・桑ノ丸式土器・塞ノ神式土器・石鏃・異形石器・石斧・石斧未製品・礫器・磨石・石皿 曾畑式土器 刻目突帯文土器・組織痕土器 成川式土器 | | |
| | H10 | 11/9~12/15 | 本調査 1,280㎡ | 鶴田 静彦 大久保浩二 | 縄文早期 縄文晩期 弥生中期 古墳 | 土坑 | 土器・石鏃 刻目突帯文土器・石斧・スクレイパー 土器 成川式土器 | | |
| | H16 | 5/11~9/9 | 本調査 1,400㎡ | 山下 博文 | 弥生 古墳 | 竪穴住居跡 1軒 掘立柱建物跡 竪穴住居跡 1軒 地下式横穴墓 1基 | 山ノ口式土器・石庖丁 成川式土器 鉄剣・鉄刀 | | 吾平町教委 |

※中尾遺跡については、検出した遺構が一部重複するため、平成3年度から平成7年度分を一括して掲載した。

第2表 一般地方道折生野・神野・吾平線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧2

| 遺跡名 | 年度 | 調査期間 | 調査面積 | 調査担当者 | 時代 | 遺構 | 遺物 | |
|--------|-----|-------------------|-----------------------|----------------|------------------|-----------------|---|------------|
| 四方高迫遺跡 | H12 | 8/7～10/27 | 確認調査 70㎡ | 鶴田 静彦 西村 喜一 | 縄文早期 弥生 古墳 | 集石8基 | 前平式土器・石坂式土器・ 石鏃・打製石斧・礫器・ 磨石・石皿 甕形土器 成川式土器 | 県教育委員会主体 |
| | | | 本調査 3,400㎡ | | | | | |
| 和田遺跡 | H14 | 7月 10月～ 1月～ | 確認調査 本調査 3,200㎡ | 川崎 重治 山下 博文 | 縄文 弥生 | 連穴土坑2基 集石20基 | 加栗山式土器・吉田式土器・ 石坂式土器・下剥峯式土器・ 磨製石鏃・打製石鏃・ 磨製石斧・打製石斧・磨石・ 石皿・砥石 | 吾平町教育委員会主体 |
| 和田Ⅱ遺跡 | H15 | 4/5～7/14 | 本調査 530㎡ | 川崎 重治 山下 博文 | 縄文早期 弥生 古墳 | 集石8基 | 加栗山式土器・吉田式土器・ 石坂式土器・下剥峯式土器・ 辻タイプ・中原式土器・磨製石鏃・ 打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・ 礫器・磨石・敲石・凹石・ 石皿・軽石製品 山ノ口式土器 成川式土器 | 吾平町教育委員会主体 |

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

中尾遺跡は、鹿児島県肝属郡吾平町上名字中尾に所在する。

遺跡の所在する吾平町は、鹿児島県の東半を占める大隅半島のほぼ中央にあり、県庁所在地の鹿児島市からは鹿児島湾を挟んで南東に約40kmの距離に位置する。行政区分上では、東を高山町、北西を鹿屋市、南西を大根占町と境を接しており、総面積は59.15km²の町である。

吾平町は、地勢的には南部の国見山系（肝属山地）、中部のシラス台地、北部の河川流域に沿って形成された河岸段丘および沖積地に区分される。南部一帯は山林、台地上には畑、河川流域には水田地帯がひろがっている。

地質的には、南部山地に黒雲母花崗岩、西部山地に輝石安山岩・玄武岩などの火山岩、その中間地帯には砂岩・頁岩交互層などの堆積岩が分布する。北部一帯は始良カルデラを噴出源とするいわゆるシラス層からなり、始良川流域には粘土層や一部に泥岩などが分布する。

中尾遺跡は、国見山系の支脈（福師岳286.2mなど）の北側、東原台地とよばれるシラス台地上および始良川の開析によって形成された河岸段丘縁辺部に立地する。標高は約40～55mである。吾平町役場からは南へ約1.5kmの距離にあり、遺跡の西約250mほどを肝属川の支流の一つである始良川が北流している。

第2節 歴史的環境

吾平町における遺跡の分布状況は、南部の山地帯には少なく、中部のシラス台地から北部の河岸段丘上および沖積地にかけて遺跡が集中する傾向がうかがえる。

このような地勢的な特徴のなかで、吾平町における考古学の成果で特筆すべきものとして、古墳時代における地下式横穴群の存在がある。本町を含む大隅地域における地下式横穴は、志布志湾沿岸および肝属川流域を中心に分布しているが、現在までに23遺跡から総数90基以上が把握されている。吾平町では天神原地下式横穴群・宮ノ上地下式横穴群・堀木田原地下式横穴・中尾地下式横穴群の4遺跡で少なくとも26基が確認されている。今後の発掘調査によってさらに増加する可能性が高い。これらの発掘成果は、南九州の古墳時代、なかでも墓制の研究においては欠かせないものとなっている。以下、吾平町内における考古学成果について概観する。

（1）宮ノ上地下式横穴墓群

肝属川の支流、始良川などの周辺にひろがる平野を望む標高約40mの台地上に位置する。昭和24年から昭和61年にかけて計6回の発掘調査が実施されている。15基の存在が確認され、そのうち10基の調査が行われている。現在は吾平小学校の校庭となっている。副葬品として土師器や鉄剣・片刃箭式鉄鏃・鉄銚・刀子などが出土している。

（2）天神原地下式横穴墓群

肝属川に面した標高約25mの台地縁辺部にある。吾平町と高山町にまたがって存在横穴墓群であ

る。これまでに4基の調査が行われ、1号地下式横穴墓から人骨一体と軽石製石棺、2号からは粘土床や軽石板とともに副葬品として直刀、鉄刀・刀子・鉄斧などが出土している。

(3) 堀木田原地下式横穴墓

宮ノ上地下式横穴墓群の西約1kmの台地縁辺部に所在し、昭和55年に発見、発掘調査が行われている。地下式横穴墓は、全長5.2mで県内では最大級の規模があり、玄室内に粘土床を有する。副葬品は鞘と思われる木質が残存する直刀、柄の一部を伴う鉄剣、刀子が出土している。

(4) 中尾遺跡（中尾地下式横穴墓群）

本遺跡は平成3年度から平成16年度にかけて11度の発掘調査が実施されている。縄文時代早期から古代にかけての複合遺跡である。なかでも古墳時代の成果が注目される遺跡であり、竪穴住居跡や溝状遺構、地下式横穴墓などの遺構が多数確認されている。今回報告するものを除いた調査成果について列挙することとしたい。

平成3年度に町教育委員会主体で調査が行われ、古墳時代のものと思われる竪穴住居跡21基と円形周溝状遺構1基、溝状遺構4条などが検出されている。今回報告する調査区の隣接地であり、周辺には大規模な集落が存在したことを裏付ける発見となった。なお、遺構数については、住居跡が切り合って存在することや本報告の遺構と同一のものが含まれる可能性が高いことから変動する可能性がある。平成8年度には、本事業に伴う調査で地下式横穴墓を2基検出したのをはじめ、個人畑地造成に伴って町教育委員会が実施した調査でも4基確認されている。平成16年度に確認した1基を含め、中尾地下式横穴墓群ではこれまでに7基の存在が把握されたことになる。地下式横穴墓の玄室は平入りで隅丸長方形を呈する。玄室内から1号で2体、2号で1体、5号で1体、6号で3体の人骨が発見されている。副葬品は円頭太刀・鉄刀・鉄鏃・刀子・銅製鈴などが出土している。

このほか、平成16年度の調査では、弥生時代中期後半の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・古墳時代の竪穴住居跡などが検出され、横穴墓から鉄剣・鉄刀が出土している。

(5) 池山B遺跡

縄文時代の遺跡で、円筒形を呈し口縁部が直行する塞ノ神式土器が採集されている。このタイプは枕崎市の奥木場遺跡からも出土しているものである。

(6) 椿ノ下遺跡

古墳時代の壺形土器が採集されている。底部はやや尖り気味の丸底で胴部がふくらみ、頸部はよくしまり口縁部は外反する器形で、胴部にはすれ違う刻み目突帯が1条めぐり、頸部から肩部と突帯の上下に櫛描波状文がみられるものである。在地性の強い成川式土器に畿内・瀬戸内の影響が考えられる技法がみられる注目すべき発見である。

(7) 四方高迫遺跡

昭和59年の大隅地区埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡で、縄文時代後期から晩期の遺

物が確認されている。平成12年に発掘調査が実施され、縄文時代早期の集石や前平式土器・石坂式土器、打製石鏃・打製石斧・磨石・石皿等が発見されている。縄文時代から古墳時代にかけての複合遺跡である。

(8) 名主原遺跡

昭和63年、平成元年、平成13・15・16年度に調査が実施され、弥生時代終末頃の花弁形住居跡をはじめとする竪穴住居跡群が多数検出されている。平成3年度の調査では同心円文や重弧文など幾何学的な沈線文様が施された壺形土器が出土している。

(9) 荷掛原遺跡

平成元年および平成3年に調査が実施され、縄文時代早期のものと思われる集石や打製石鏃・磨石・剥片石器類が出土している。

(10) 水流遺跡

平成2年に調査が実施され、縄文早期の集石、前平式土器・吉田式土器・石坂式土器・山形押型文土器のほか阿高式土器が出土している。

(11) 筒ヶ迫遺跡

平成3年に発掘調査が実施され、縄文時代の組織痕土器や古墳時代、古代の遺物・溝状遺構が発見されている。

(12) 原口岡遺跡

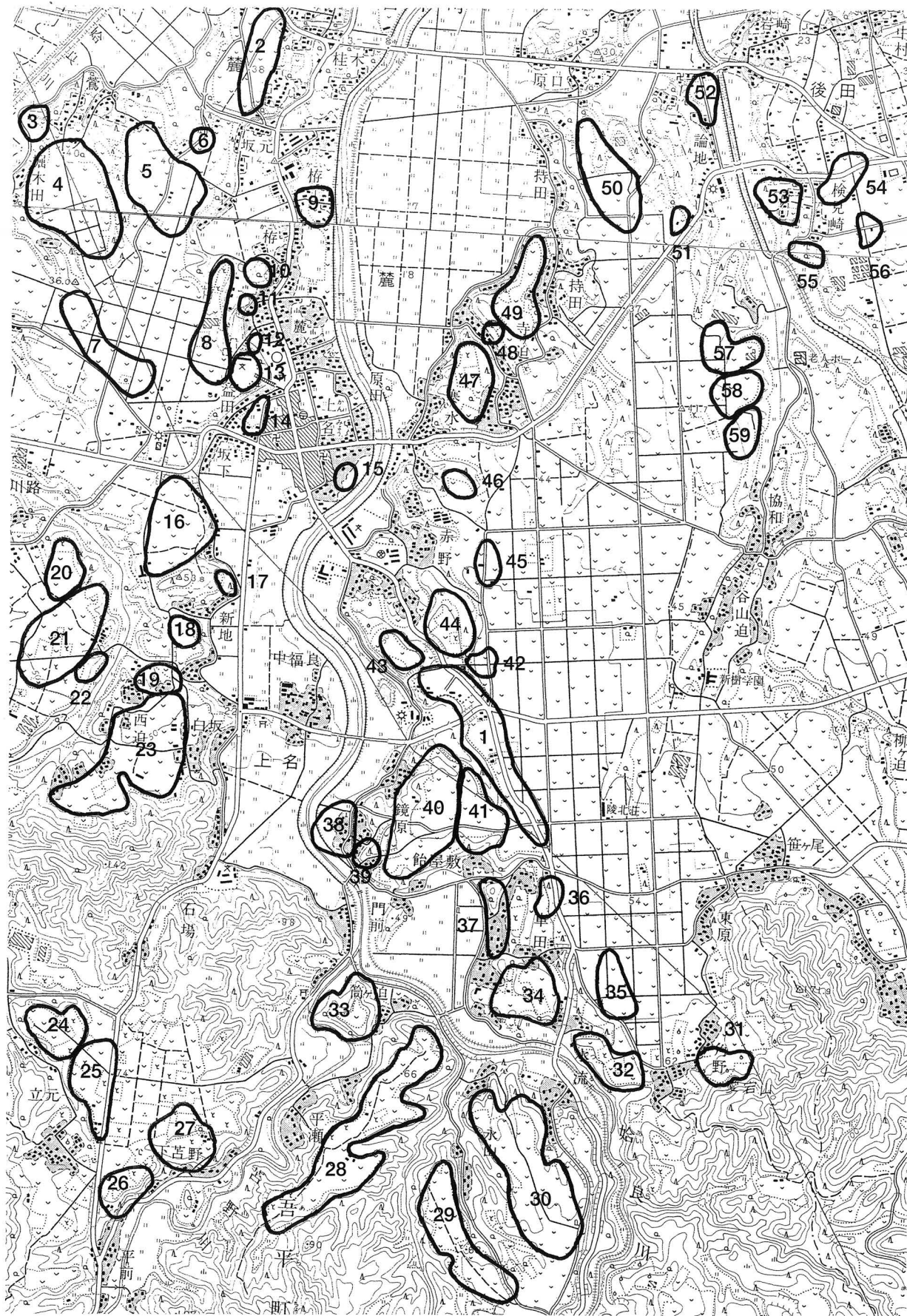
平成6年度に発掘調査が実施され、縄文時代早期の集石6基のほか、前平式土器・吉田式土器・石坂式土器・石斧・磨製石鏃・石皿・砥石・剥片石器等の遺物が出土している。

(13) 和田遺跡

平成12年度に確認調査、平成14・15年度に本調査が実施され、縄文時代早期の連穴土坑2基、集石28基などの遺構のほか、加栗山式土器・吉田式土器・石坂式土器・下剥峯式土器・辻タイプ・中原式土器・磨製石鏃・打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・石皿・砥石などの遺物が出土している。

吾平町内においては、前述した弥生～古墳時代の成果に加え、近年の発掘調査で縄文時代早期の遺構・遺物の発見が相次ぎ、大隅半島における当該期の研究において欠かすことのできない貴重な資料を追加している現状である。

ここに列挙した遺跡を含め、中尾遺跡の周辺に所在する遺跡については、第3・4表のとおりである。



第2図 周辺遺跡位置図 (1/25000)

第3表 周辺遺跡地名表(1)

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 地形 | 時代 | 遺物等 | 備考 |
|-----|----------------|--------------|----|-----------------------|---|---------------------|
| 1 | 中尾 | 吾平町上名中尾 | 台地 | 縄文・弥生・古墳 | 縄文(早・晩)・弥生土器・成川式土器 | 本報告 |
| 2 | 名主原 | 吾平町下名川西名主 | 台地 | 弥生・古墳・奈良・平安 | 弥生土器・成川式土器・土師器・須恵器 | S63・H1・13・15・16調査 |
| 3 | 堀木田 | 吾平町麓堀木田 | 低地 | 弥生(中・後) | 甕棺・打製石斧・土器 | |
| 4 | 和泉田原 | 吾平町麓和泉田原 | 台地 | 弥生・古墳・奈良・平安 | 弥生土器・成川式土器・須恵器・土師器 | |
| 5 | 鷺原 | 吾平町麓鷺原 | 台地 | 弥生 | 土器 | |
| 6 | 川上 | 吾平町麓川上 | 台地 | 弥生 | 高坏・壺 | |
| 7 | 廣牧 | 吾平町麓廣牧 | 台地 | 古墳 | | H5町調査 |
| 8 | 城ヶ迫原 | 吾平町麓城ヶ迫原 | 台地 | 弥生 | 土器 | |
| 9 | 柵の下 | 吾平町麓柵下 | 低地 | 弥生(中)・古墳 | 土器(櫛目文あり) | |
| 10 | 山古城跡 | 吾平町麓城ヶ迫原城山 | 丘陵 | 平安(末)中世(室町末) | 上古平判官と申人数代居住, 近世初頭島津氏支配, 回り八町, 高さ十間 | 「始良名勝志」 「三國名勝図絵」 |
| 11 | 地頭御仮屋跡 | 吾平町麓山古城南山麓 | 低地 | 平安(末)・中世(室町)・近世 | 上古平判官居館跡, 島津の地頭初代以降(天正から) | |
| 12 | 千手院(坂) | 吾平町麓千手院 | 台地 | 弥生(後)・奈良・平安 土器・土師器 | | |
| 13 | 宮ノ上地下式横穴 | 吾平町麓宮ノ上吾平小校庭 | 台地 | 古墳 | 地下式横穴・直刀・鉄器 | S24・29・46・53・61調査 |
| 14 | 宮ノ前 (鵜戸神社脇) | 吾平町麓宮ノ前鵜戸神社脇 | 低地 | 弥生(中) | 弥生壺形土器(完全) | |
| 15 | 町頭 | 吾平町麓町頭 | 低地 | 弥生(中) | 弥生壺形土器(完全) | |
| 16 | 道脇 | 吾平町麓道脇 | 台地 | 弥生・古墳・奈良・平安 | 弥生土器・成川式土器・土師器・須恵器・青磁 | |
| 17 | 猫塚 | 吾平町麓猫塚 | 台地 | 古墳・奈良・平安 | 成川式土器・土師器・須恵器 | |
| 18 | 新地上 | 吾平町上名新地上 | 台地 | 縄文(前)・弥生(前・中) | 曾畑式・石匙・弥生土器・石庖丁 | |
| 19 | 西迫 | 吾平町上名西迫 | 台地 | 弥生(中) | 弥生土器・石斧 | |
| 20 | モタイ坂 | 吾平町上名モタイ坂 | 台地 | 弥生(中)・古墳 | 弥生土器・打製石斧 | |
| 21 | 前木場A | 吾平町上名前木場 | 台地 | 古墳・奈良・平安 | 成川式土器・土師器・須恵器 | |
| 22 | 前木場 | 吾平町上名前木場 | 台地 | 縄文・弥生(中・後)・古墳 | 弥生土器・須恵器 | S63調査 |
| 23 | 白坂原 | 吾平町上名白坂原 | 台地 | 弥生・古墳・奈良・平安 | 弥生土器・成川式土器・土師器 | |
| 24 | 下小原 | 吾平町上名下小原 | 台地 | 弥生・古墳 | 弥生土器・土師器 | |
| 25 | 立元 | 吾平町上名立元 | 台地 | 縄文(後)・弥生(前・中) | 市来式土器・指宿式土器・磨製石斧・石鎌・弥生土器 | |
| 26 | 苦野原A | 吾平町上名苦野原 | 台地 | 縄文(後)・弥生(中) | 指宿式土器・市来式土器・弥生土器・石器 | |
| 27 | 苦野原B | 吾平町上名苦野原 | 台地 | 弥生・古墳・奈良・平安 | 弥生土器・成川式土器・土師器 | |
| 28 | 筒ヶ迫 | 吾平町上名筒ヶ迫原 | 台地 | 縄文(晩)・古墳 | | 旧名「筒ヶ迫原」 |
| 29 | 中崎 | 吾平町上名中崎 | 台地 | 古墳 | | |
| 30 | 水流 | 吾平町上名水流 | 台地 | 縄文(早)・弥生・古墳 | 土器 | H2調査 |
| 31 | 角野原 | 吾平町上名角野原 | 台地 | 弥生(中) | 土器・石斧 | |
| 32 | 四方高迫 | 吾平町上名四方高迫 | 台地 | 縄文・弥生・古墳 | 曾畑式土器・指宿式土器・蒺目圧痕・弥生土器・成川式土器・土師器・青磁・打製石斧・石皿・磨製石斧・磨石・砥石 | H12調査 |
| 33 | 筒ヶ迫城跡 | 吾平町上名迫門前 | 丘陵 | 中世(室町) | 天文天正の頃地頭居住回り十二町, 高さ十五間, 肝属伊勢守の城跡という。 | 「始良名勝志」 「三國名勝図絵」 |
| 34 | 渡迫 | 吾平町上名渡迫(車田) | 台地 | 弥生(前・中) | 弥生土器・石斧 | |
| 35 | 角野原A | 吾平町上名 | 台地 | 縄文(早)・古墳 | 吉田式土器・成川式土器 | H12確認調査 |

第4表 周辺遺跡地名表(2)

| No | 遺跡名 | 所在地 | 地形 | 時代 | 遺物等 | 備考 |
|----|--------|-----------|----|---------------|---------------------------------|-------------|
| 36 | 和田 | 吾平町上名和田 | 台地 | 弥生(中・後) | 弥生土器 | H12・14・15調査 |
| 37 | 松下城跡 | 吾平町上名西椿 | 台地 | 中世(室町) | 筒ヶ迫城跡の前哨陣地としての役割 | |
| 38 | 軍宮下 | 吾平町上名 | 低地 | | | H11調査 |
| 39 | 鏡原 | 吾平町上名鏡原 | 台地 | 縄文(中・後)・弥生・古墳 | 市来式土器・阿高式土器・磨製石斧・弥生土器・成川式土器・土師器 | |
| 40 | 鏡原上 | 吾平町上名鏡原 | 台地 | 弥生(中・後) | 弥生土器・石斧 | |
| 41 | 諏訪尾 | 吾平町上名諏訪尾 | 台地 | 弥生(中・後) | 弥生土器・土師器 | H9調査 |
| 42 | 打越 | 吾平町赤野打越 | 低地 | 古墳 | | H5市町村調査 |
| 43 | 大久保迫 | 吾平町上名大久保迫 | 台地 | 縄文・弥生 | 縄文土器・弥生土器 | |
| 44 | 境原 | 吾平町麓境原 | 台地 | 弥生・古墳・奈良・平安 | 弥生土器・成川式土器・土師器 | |
| 45 | 赤野原 | 吾平町麓赤野原 | 台地 | 弥生(中) | 弥生土器・石斧 | |
| 46 | 反田原 | 吾平町麓反田原 | 台地 | 縄文・弥生・奈良・平安 | 土師器・土器 | |
| 47 | 三角原 | 吾平町麓三角原 | 台地 | 弥生・奈良・平安 | 土器・土師器・須恵器 | |
| 48 | 寺ヶ迫古墳群 | 吾平町麓寺ヶ迫 | 台地 | 弥生(中)・古墳 | 円墳9基 | |
| 49 | 霧島原 | 吾平町麓霧島原 | 台地 | 弥生・古墳・奈良・平安 | 弥生土器・成川式土器・土師器・須恵器 | |
| 50 | 井牟田 | 吾平町下名井牟田 | 低地 | 弥生・古墳 | 弥生土器・成川式土器 | |
| 51 | 論地原 | 吾平町下名論地 | 台地 | 弥生・古墳 | 弥生土器・成川式土器 | |
| 52 | 論地原 | 高山町後田論地原 | 台地 | | 弥生土器 | |
| 53 | 検見崎城跡 | 高山町跡田検見崎 | 台地 | 中世 | 肝属氏出城の一・肝属二代の主兼経の弟兼友の居館堀割・墓石等現存 | |
| 54 | 橋戸 | 高山町後田 | | 古墳 | | H12土木分布調査 |
| 55 | 北後田古墳群 | 高山町後田・稲村 | 台地 | 古墳 | | |
| 56 | 検見崎 | 高山町後田検見崎 | 台地 | 弥生(後) | 円墳の回りに多量に散布 | |
| 57 | 銭亀 | 高山町後田銭亀 | 台地 | 弥生 | | |
| 58 | 小牟田上 | 高山町後田小牟田上 | 台地 | 弥生・歴史 | | |
| 59 | 稲荷岡 | 高山町後田稲荷岡 | 台地 | 弥生 | | |

〈参考・引用文献〉

- 「山内原遺跡・大牟礼遺跡・児玉渡遺跡・中原遺跡」 吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 1985 吾平町教育委員会
 「宮ノ上地下式横穴群・松下城遺跡・大牟礼遺跡」 吾平町発掘調査報告書(2) 1987 吾平町教育委員会
 「前木場遺跡」 吾平町発掘調査報告書(3) 1988 吾平町教育委員会
 「前木場原遺跡・モタイ坂遺跡・菌入寺跡遺跡」 吾平町発掘調査報告書(4) 1989 吾平町教育委員会
 「天神原地下式横穴群」 吾平町発掘調査報告書(5) 1989 吾平町教育委員会
 「六条原A遺跡」 吾平町発掘調査報告書(6) 1989 吾平町教育委員会
 「名主原遺跡・荷掛原遺跡」 吾平町発掘調査報告書(7) 1990 吾平町教育委員会
 「水流遺跡・横井坂遺跡」 吾平町発掘調査報告書(8) 1990 吾平町教育委員会
 「黒羽子遺跡」 吾平町発掘調査報告書(9) 1991 吾平町教育委員会
 「筒ヶ迫遺跡・荷掛原遺跡」 吾平町発掘調査報告書(10) 1992 吾平町教育委員会
 「原口岡遺跡」 吾平町発掘調査報告書(11) 1994 吾平町教育委員会
 「反田原遺跡」 吾平町発掘調査報告書(12) 1994 吾平町教育委員会
 「出水・軍宮下遺跡」 吾平町発掘調査報告書(13) 2000 吾平町教育委員会
 「中尾地下式横穴群」 吾平町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書(14) 1998 吾平町教育委員会
 「和田遺跡」 吾平町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書(17) 2004 吾平町教育委員会

第Ⅲ章 発掘調査の概要

第1節 発掘調査の方法

調査は、測量基準として「一般地方道折生野神野吾平線改良施行計画平面図」のセンターラインNo.64とNo.68の2点を結ぶ線を基軸に、北西から南東方向に1・2・3～、北東から南西方向にA・B・C～とする10m間隔の調査用グリッド（区割り）を設定して実施した。

なお、平成3年から平成7年度の調査では、レベル原点として肝属郡吾平町上名字中尾の町営グラウンドに所在するB.M.6(H=49.459m)と同字中尾6396番地に所在するB.M.5(H=51.887m)を基準として利用した。

平成3年度の調査は、遺跡の範囲や性格を把握するため事業区間の県道拡幅部分、3,600㎡を対象に確認トレンチを18か所設定して行った。その結果、調査区域全体に遺跡が残存することか判明したため、確認調査を本調査に切り替え、継続して調査を実施した。この時点で、現道部分の下位にも遺跡がひろがることが把握されたことから、事業区間の北側から平成5年度に3,000㎡、平成6年度には1,200㎡、平成7年度に1,000㎡を対象に本調査を行った。なお、平成7年度から平成9年度については、さらに南側への遺跡のひろがり把握するための確認調査を本調査と併行して実施した。

調査の順序としては、伐採等の環境整備を実施した後、重機（バックホー）によって表土・アスファルトなどを除去し、Ⅱ層以下について遺構検出面であるⅣ（池田火山灰）層上面あるいはⅥ（アカホヤ火山灰）層上面まで人力（山鋤・ジョレン等を利用）による掘り下げを行った。出土した遺物（土器・石器など）を記録して取り上げた後、検出した遺構（竪穴住居跡・溝状遺構など）については、それぞれ丁寧に掘り下げを行い（移植ゴテ等を利用）、写真撮影や図面作成作業を実施した。その後、Ⅶ（乳茶褐色粘質土）層まで人力によって掘り下げ、再度、遺物の取り上げなどを行い、遺構検出（集石など）・図面作成作業などを実施した。さらに下層確認のため、部分的に下層確認トレンチを設定して掘り下げを行い、遺物包含層の確認に努めた。なお、掘削によって生じた排土は、調査区の幅が狭いために隣接する事業区内の調査終了区間などにベルトコンベアやタイヤショベル、バックホーによって搬出した。その際、調査地と現道との高低差がある場合は、作業上の安全等を考慮して場合によっては法勾配を取りながらの掘削、排土処理を実施した。なお、各年度とも発掘調査終了跡には掘削部分の埋め戻しを行った後、県土木部（鹿屋土木事務所）への調査現場の引き渡しを実施した。

第2節 調査成果の概要

平成3年度から平成7年度にかけての発掘調査の結果、Ⅷ層上面で縄文時代早期の集石を8基検出し、Ⅶ層から吉田式土器・下剥峯式土器・塞ノ神A式土器などの土器、打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・礫器・磨敲石類・石皿などの石器が出土した。Ⅳ層からは、縄文時代晩期の土坑3基のほか、黒川式土器・刻目突帯文土器・組織痕土器などの土器、打製石鏃・磨製石斧・打製石斧などが出土した。このほか、Ⅳ層からⅥ層上面において古墳時代の竪穴住居跡22軒、溝状遺構4条などを検出した。各時代ごとの調査成果の詳細については、第Ⅳ章でふれることとする。

第5表 確認調査の概要一覧

| 年度 | トレンチ番号 | トレンチの規模 | 遺 構 | 遺 物 |
|--------|--------|------------|--------|-------------|
| H 3 | 1 T | 2 × 4 m | — | 有 |
| | 2 T | 1.2 × 6.5m | 溝状遺構 | 有 |
| | 3 T | 2 × 6 m | 溝状遺構 | 有 |
| | 4 T | 2 × 5 m | — | 有 |
| | 5 T | 2 × 5 m | — | 有 |
| | 6 T | 2 × 5 m | — | 有 |
| | 7 T | 12 × 1.5m | — | 有 |
| | 8 T | 2 × 8 m | — | 有 |
| | 9 T | 2 × 4 m | — | 有 |
| | 10T | 2 × 4 m | — | 有 |
| | 11T | 2 × 4 m | — | 有 |
| | 12T | 2 × 5 m | — | 有 |
| | 13T | 2 × 6 m | — | 有 |
| | 14T | 2 × 10m | — | 有 |
| | 15T | 2 × 10m | — | 有 |
| | 16T | 2 × 4 m | — | 有 |
| | 7T | 2 × 3 m | — | 有 |
| | 18T | 14 × 1.5m | — | 有 |
| H 6 | 1 T | 2 × 5 m | — | 有 |
| | 2 T | 2 × 5 m | — | 有 |
| H 7 | 1 T | 2 × 7 m | 竪穴住居跡 | 縄文時代早期・古墳時代 |
| | 2 T | 2 × 4 m | 溝状遺構 | 縄文時代早期・古墳時代 |
| | 3 T | 2 × 3 m | — | 縄文時代早期・古墳時代 |
| | 4 T | 2 × 5 m | — | 縄文時代早期 |
| | 5 B T | 2 × 4 m | 溝状遺構 | 古墳時代 |
| | 6 T | 2 × 4 m | — | 縄文時代早期 |
| H 8 | 1 T | 2 × 4 m | 竪穴住居跡 | 縄文時代早期・古墳時代 |
| | 2 T | 2 × 4 m | — | 縄文時代早期・古墳時代 |
| | 3 T | 2 × 4 m | — | 古墳時代 |
| | 4 T | 2 × 4 m | 地下式横穴墓 | 古墳時代 |
| | 5 T | 2 × 4 m | — | 古墳時代 |
| H 9 | 1 T | 3 × 4 m | — | 弥生時代中期土器 |
| | 2 T | 3 × 3 m | — | 縄文時代早期土器 |
| | 3 T | 3 × 4 m | — | 弥生時代中期土器 |
| | 4 T | 3 × 4 m | — | 縄文時代早期土器 |

第3節 遺跡の層位

中尾遺跡は、標高約40～55mのシラス台地および始良川の開析によって形成された河岸段丘縁部に立地する。遺跡およびその周辺の現況は、徐々に宅地化が進んでいるものの、ほぼ平坦な畑地帯がひろがっており、地形的には良好な様相を呈している。ただし遺跡が形成されたI層より下位の旧地形においては、台地縁部に立地することもあって部分的に起伏が認められ、浅い谷状の地形を形成するなど、現地地形から受ける印象とは相違がある。このような旧地形に対し、後世に盛土や削平などの造成が行われたこともあり、地層の堆積や残存状況には地点によって若干の差が認められる。今回報告する中尾遺跡の調査区内における基本的な土層は、M～N-41区の土層を指標とした。基本的な層序については以下の通りである。なお、層厚については調査区全体における数値である。

| | | | |
|------|--------|---------|--|
| I | I 層 | 灰黒褐色土 | I層は、表土または旧表土・盛土・耕作土である。層厚約20～200cmである。 |
| II | II 層 | 黒褐色土 | II層は、O-14～15区、M-20～25区を中心に調査範囲の一部にわずかに残存する。古代の遺物包含層である。残存部分での層厚は約5～50cmである。 |
| III | III 層 | 暗紫色土 | III層は、開聞岳を起源とする噴出物で、通称紫ゴラとよばれる。 |
| IV a | IV a 層 | 暗黄褐色土 | IV層中の上位に部分的であるがブロック状に認められ、層厚約4～10cmである。噴火の年代については西暦874（貞観16）年が有力である。 |
| IV b | IV b 層 | 黄褐色土 | IV層は、約5,500年前の池田カルデラを起源とする噴出物で、上位から火山灰層（IV a）、火砕流層（IV b）に細分される。基本的にIV a層は、縄文時代晩期・古墳時代の遺物包含層である。IV層の層厚は約20～40cmである。 |
| V | V 層 | 黄褐色軽石層 | V層は、池田カルデラを起源とする噴出物で池田降下軽石とよばれる。層厚は約20～50cmである。なお、V層下部には部分的に尾下降下スコリアと呼ばれる黒褐色火山礫が認められる。層厚約4cm程度である。 |
| VI a | VI a 層 | 黄橙色火山灰層 | VI層は、約6,400～6,300年前の鬼界カルデラを起源とする噴出物で、通称アカホヤ火山灰とよばれる。上位から火山灰層（VI a層）、軽石層（VI b層）に細分される。VI層の層厚は約20～60cmである。 |
| VI b | VI b 層 | 黄橙色軽石層 | VI層は、約6,400～6,300年前の鬼界カルデラを起源とする噴出物で、通称アカホヤ火山灰とよばれる。上位から火山灰層（VI a層）、軽石層（VI b層）に細分される。VI層の層厚は約20～60cmである。 |
| VII | VII 層 | 乳茶褐色粘質土 | VII層は、縄文時代早期の遺物包含層でやや硬質である。層厚約20～30cmである。 |
| VIII | VIII 層 | 黒褐色土 | VIII層は、やや硬質で約11,500年前の桜島を起源とする噴出物、通称薩摩火山灰が部分的にパミス状に点在する。層厚約30cmである。 |
| IX | IX 層 | 暗茶褐色粘質土 | IX層は、通称チョコ層とよばれる層に該当すると思われ、やや硬質である。IX層から遺物の出土は認められていない。 |
| X | X 層 | 黄褐色粘質土 | |

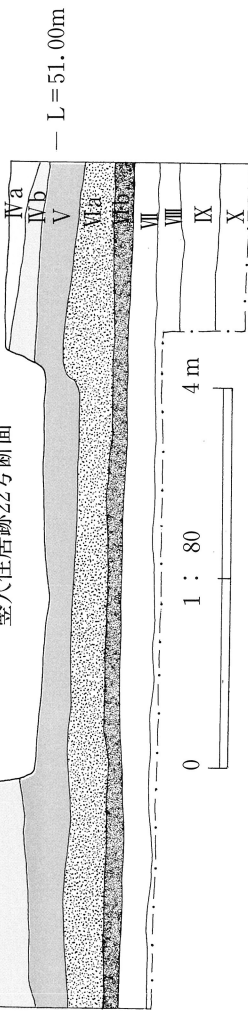
第3図 中尾遺跡基本土層図

③M-40区 土層断面図

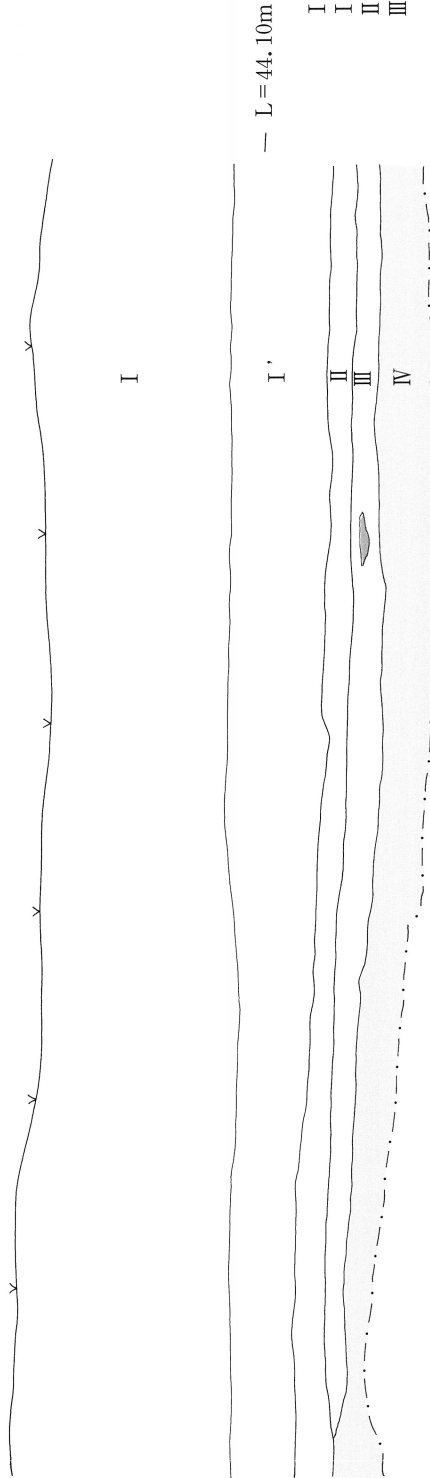
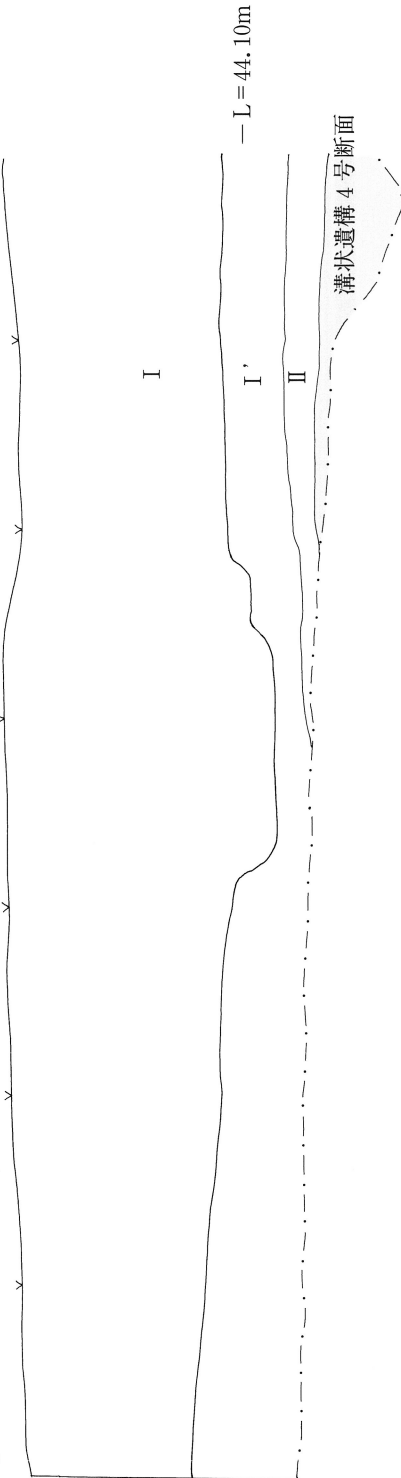
M-40区

竪穴住居跡22号断面

- IVa 暗黄褐色土
- IVb 黄褐色土
- V 黄褐色軽石層
- VIa 黄褐色火山灰層
- VIb 黄褐色軽石層
- VII 乳茶褐色粘質土
- VIII 黒褐色土 (部分的に薩摩火山灰パミス含む)
- IX 暗褐色粘質土
- X 白褐色粘質土

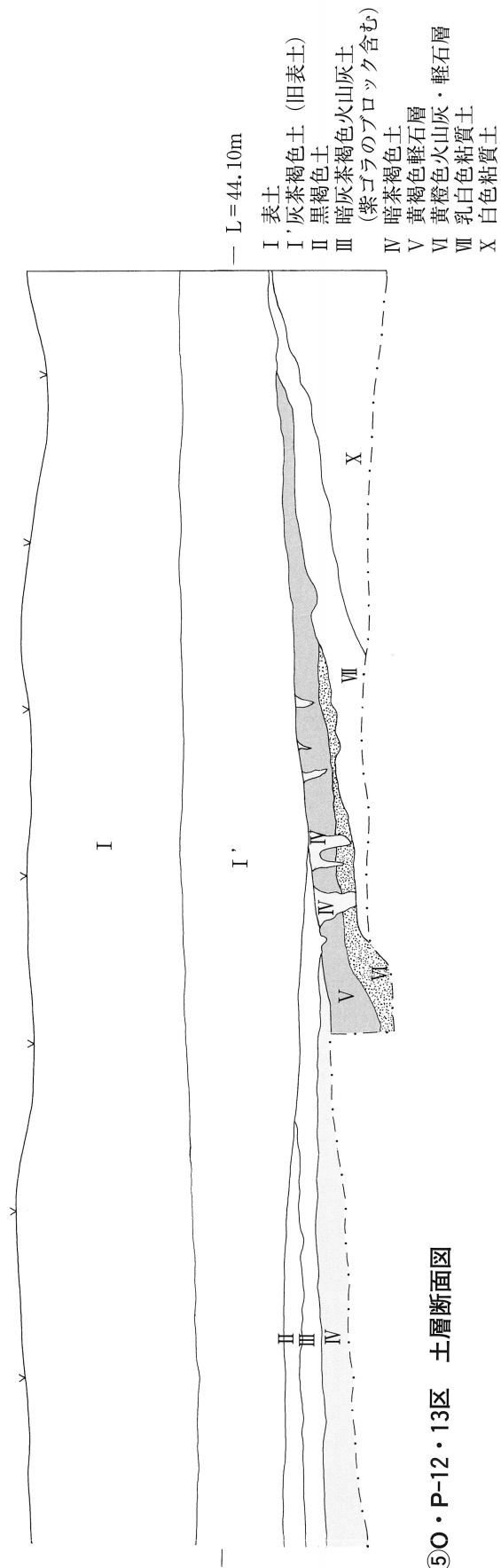


④R~T-5~8区 土層断面図

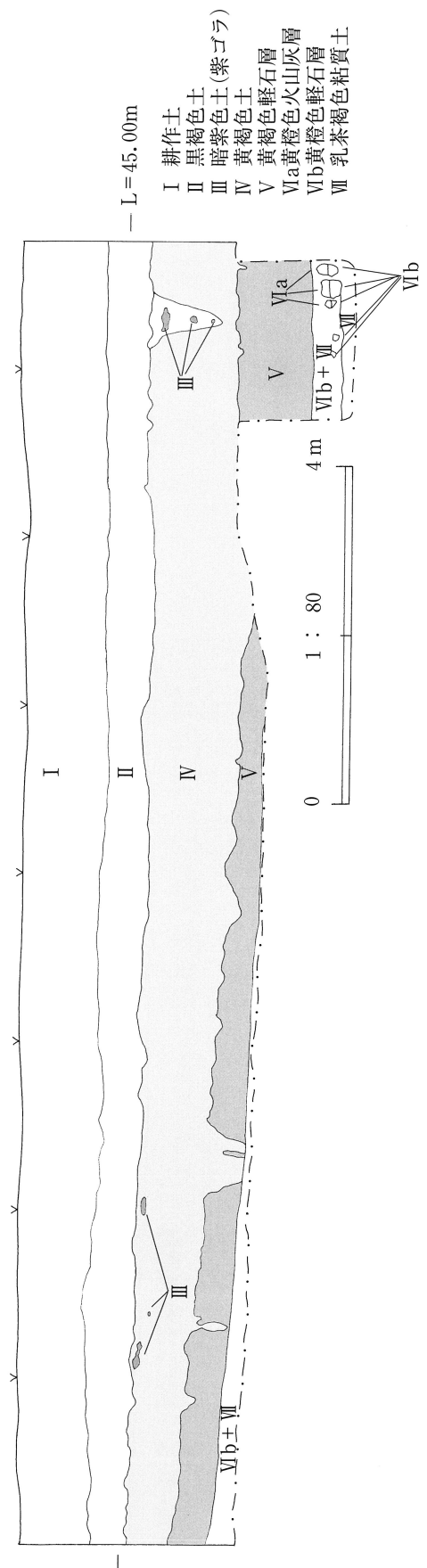


- I 表土
- I' 灰茶褐色土 (旧表土)
- II 黒褐色土
- III 暗灰茶褐色火山灰土 (紫ゴラのブロック含む)
- IV 暗茶褐色土

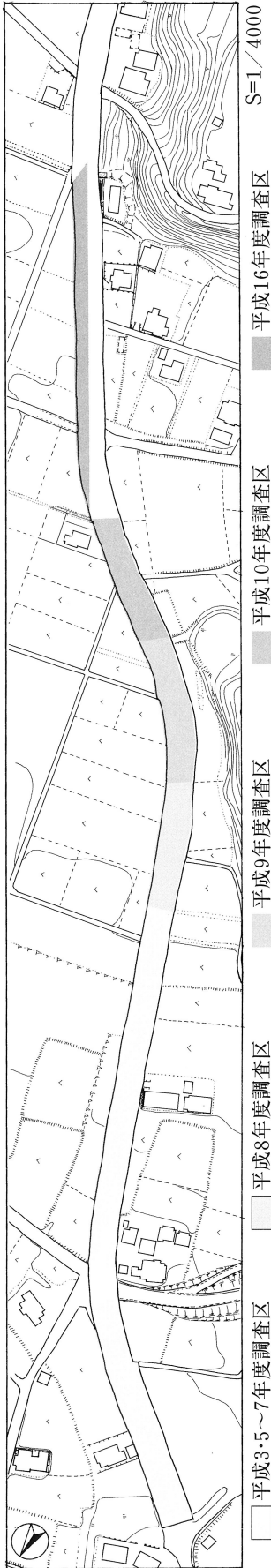
第5図 土層断面図2



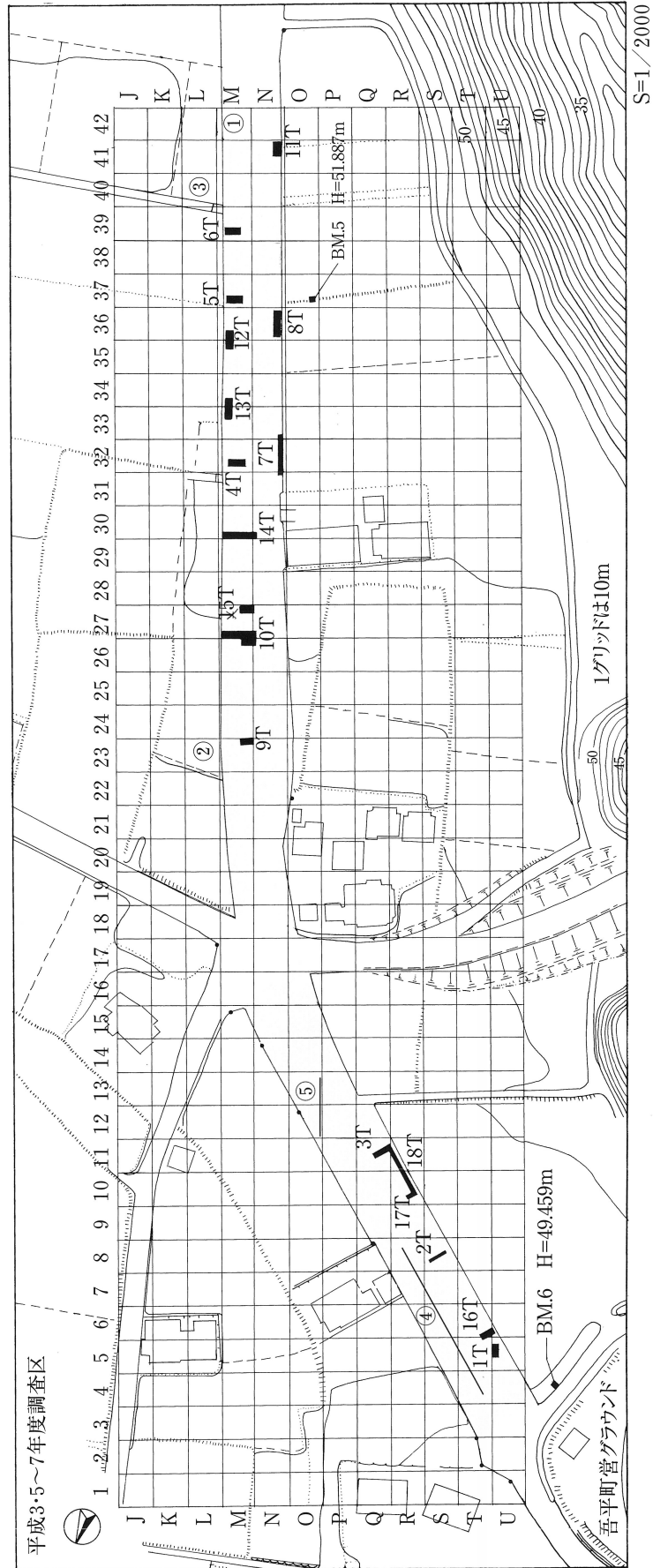
⑤O・P-12・13区 土層断面図



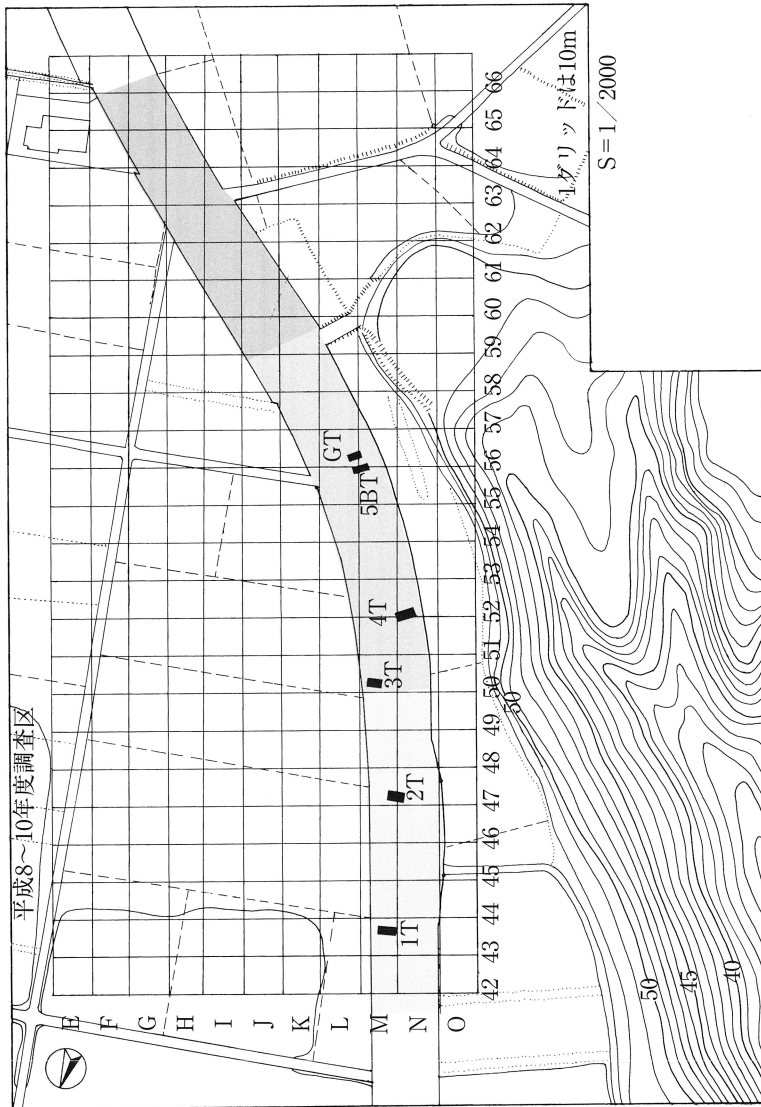
第6図 土層断面図3



第7図 調査区域全体図



第8図 調査グリッド・確認調査トレンチ位置図1



第8図の確認調査トレンチ

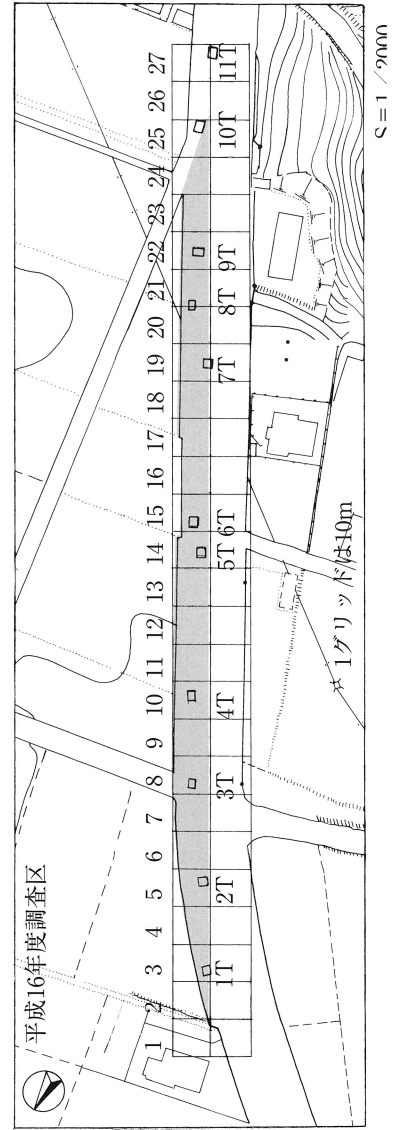
■ 平成3年度に設定したトレンチ (1～18T)

□ 平成6年度に設定したトレンチ (1～2T)

第9図の確認調査トレンチ

■ 平成7年度に設定したトレンチ (1～6T)

□ 平成16年度に設定したトレンチ (1～11T)



第9図 調査グリッド・確認調査トレンチ位置図2

第Ⅳ章 発掘調査の成果

第1節 Ⅶ層の調査（縄文時代早期）

乳茶褐色粘質土のⅦ層からは、縄文時代早期の吉田式土器・石坂式土器・下剥峯式土器・塞ノ神A式土器などの土器、打製石鏃・磨製石斧・打製石斧・礫器・磨石・磨敲石・敲石・石皿などの石器が出土した。これらの出土遺物を記録して取り上げた後、黒褐色土のⅧ層上面で遺構検出を実施した結果、縄文早期に属すると思われる集石を計8基検出した。

1 検出遺構（第11図～第15図）

（1）集石1号（第11図）

M-24区のⅧ層上面で検出されたものである。径5～15cm程度の輝石安山岩・花崗岩の垂円礫・角礫120個で構成される。集石内部および周辺に掘り込みは確認されていない。

（2）集石2号（第12図）

M-26区で検出したものである。集石を構成する礫は、1.0×0.85mの範囲に分布しており散在的で集中は弱い。径5～10cm程度の輝石安山岩の円礫・垂円礫31個で構成される。集石内部およびその周辺に掘り込みや共伴遺物は認められていない。

（3）集石3号（第12図）

N-24区のⅧ層上面で検出されたものである。風化した輝石安山岩を主体とする円礫33個で構成される。集石内から外面に貝殻条痕を施す土器の胴部片が3点出土したほか（第13図 1～3）、炭化物がわずかに認められた。集石に伴う掘り込みは確認されていない。

（4）集石4号（第12図）

M-25区のⅧ層上面で検出したものである。集石を構成する礫は、0.6×0.33mの範囲に分布する径5～10cm程度の輝石安山岩の扁平な角礫16個で構成される。集石周辺からは掘り込み、炭化物、共伴遺物は確認されていない。

（5）集石5号（第12図）

N-26区のⅦb層で検出されたものである。集石を構成する礫は0.6×0.33mの範囲に分布する。径5～10cm前後の円礫3個、角礫13個の計16個で構成される。集石内に掘り込みは検出されていないが炭化物がわずかに認められた。

（6）集石6号（第14図）

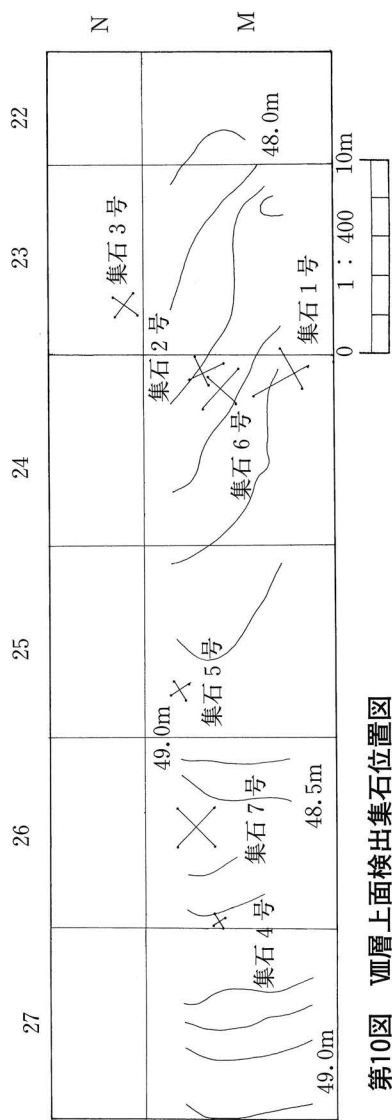
M-24区のⅧ層上面で検出したものである。径5～10cm程度の輝石安山岩・花崗岩の角礫21個で構成される。礫は1.05×1.55mの範囲に散らばっておりまとまりは弱い。集石周辺から掘り込み、遺物は認められていない。

（7）集石7号（第14図）

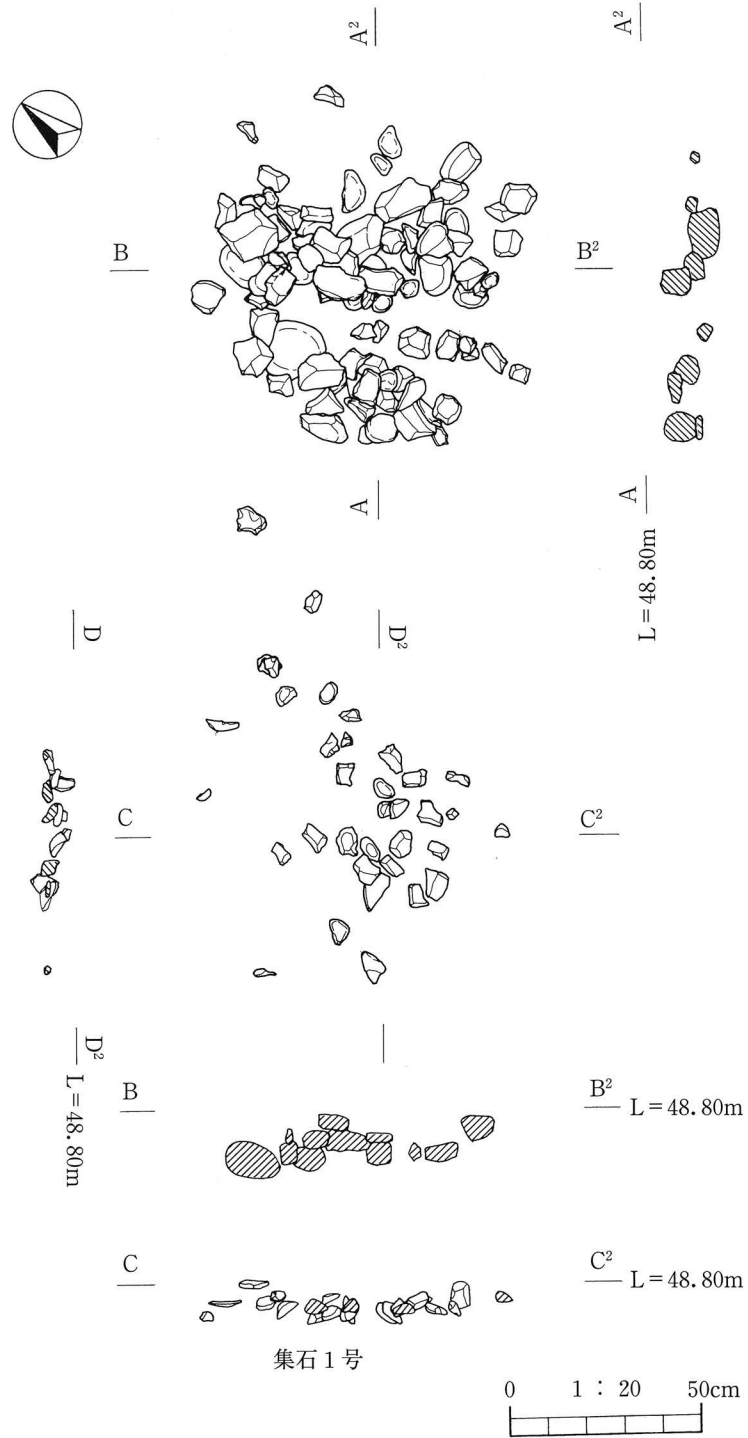
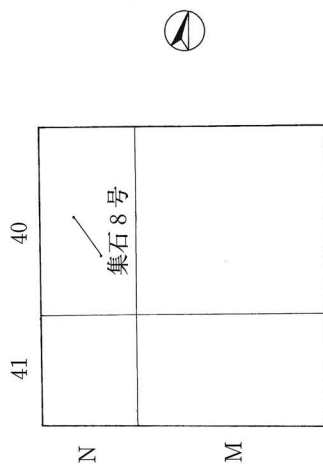
M-24区のⅦ層上面で検出したものである。輝石安山岩の垂円礫・角礫41個で構成される。集石の内部には掘り込み、遺物とも認められていない。

（8）集石8号（第15図）

M-40区のⅧ層上面で検出したものである。径5～10cm前後の角礫・垂円礫26個で構成される。

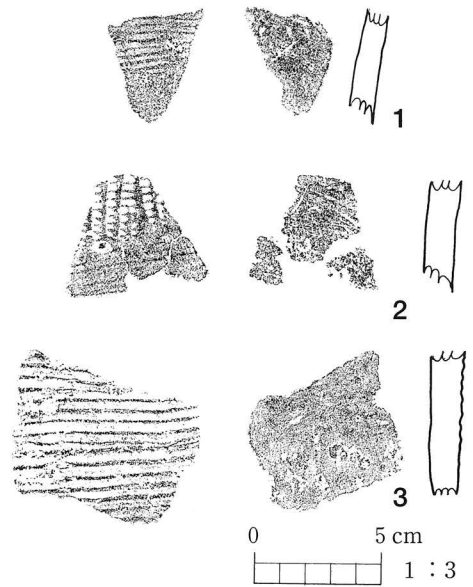
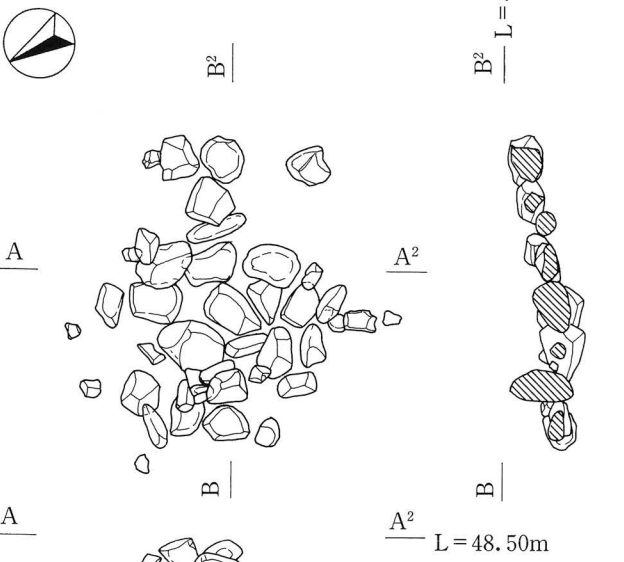
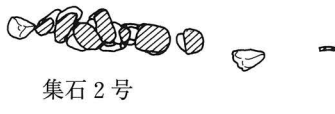
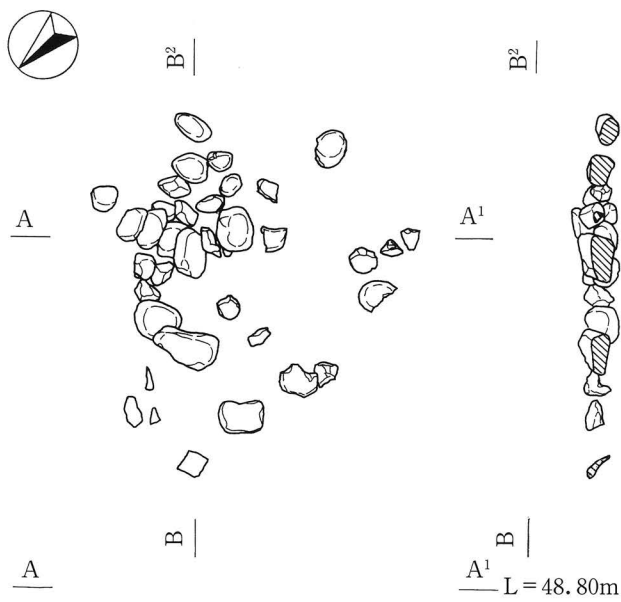


第10図 VIII層上面検出集石位置図

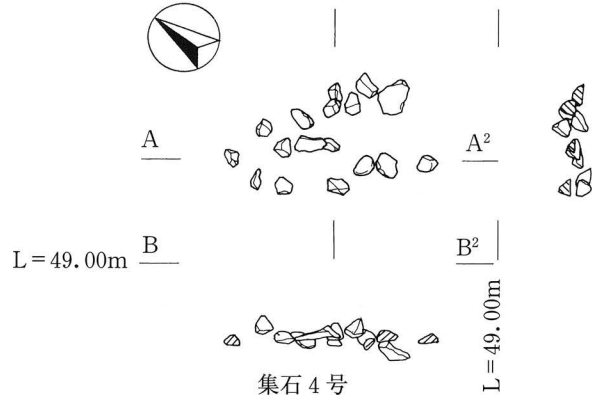


第11図 集石1

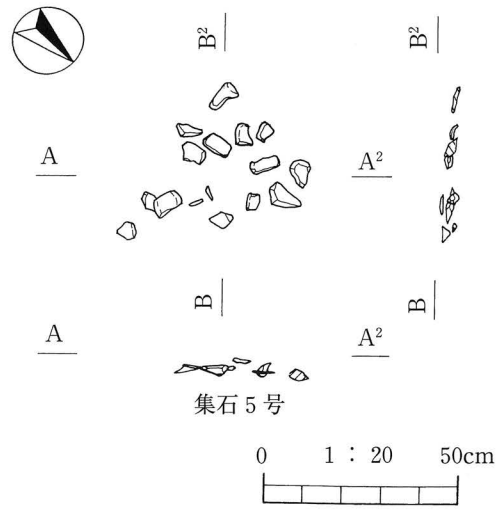
礫は2.2×2.2mの範囲に分布しており散在的で集中は弱い。集石内およびその周辺から掘り込み、遺物、炭化物などは確認されていない。



第13図 集石 3号出土遺物



集石 4号

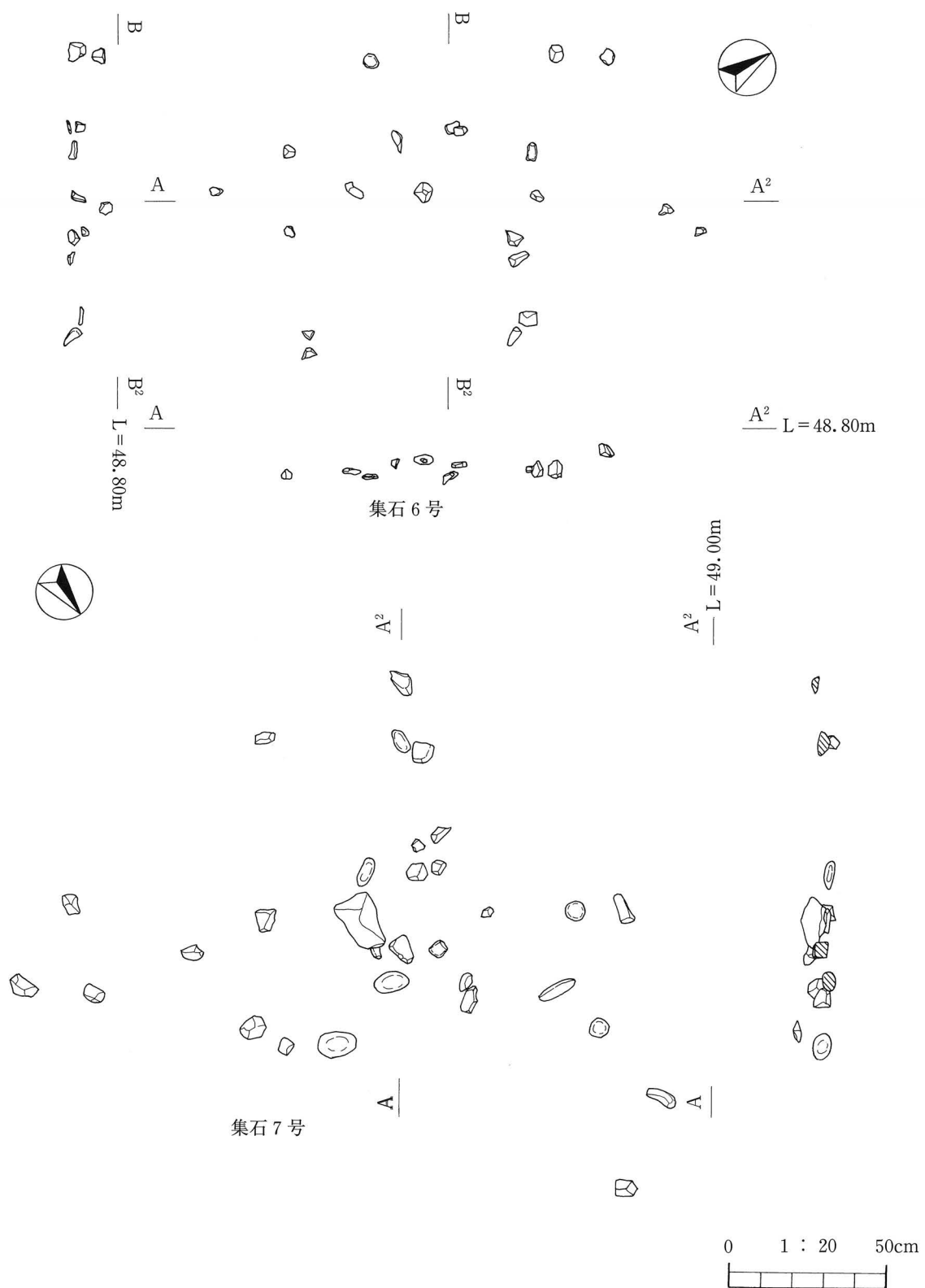


集石 5号

第12図 集石 2

第 6 表 集石 3号出土遺物観察表 (集石内)

| 挿図番号 | 遺物番号 | 器種 | 出土区 | 遺構 | 文様 | 色調 | | 胎土 |
|------|------|----|------|-------|------|----|----|--------------|
| | | | | | | 内面 | 外面 | |
| 13 | 1 | 深鉢 | N-24 | 集石 3号 | 貝殻条痕 | 黒褐 | 褐 | 長石・石英 |
| | 2 | 深鉢 | N-24 | 集石 3号 | 貝殻刺突 | 明褐 | 黒褐 | 長石・石英・黄橙色砂 |
| | 3 | 深鉢 | N-24 | 集石 3号 | 貝殻条痕 | 褐 | 暗褐 | 金色雲母・長石・黄橙色砂 |



第14図 集石 3



第15図 集石 4

第7表 遺構観察表 (集石)

| 挿図 番号 | 遺構名 | 検出区 | 検出面 | 時期 | 長さ (m) | 幅 (m) | 礫数 (個) | 石材 | 遺物 |
|----------|-------|---------|------|------|-------------|--------------|-----------|-----------|------|
| 11 | 集石 1号 | M-24 | Ⅷ層上面 | 縄文早期 | 0.97 1.3 | 0.92 0.85 | 85 35 | 輝石安山岩・花崗岩 | - |
| 12 | 集石 2号 | M-26 | Ⅷ層上面 | 縄文早期 | 2.15 | 1.70 | 31 | 輝石安山岩 | - |
| | 集石 3号 | N-25 | Ⅷ層上面 | 縄文早期 | 1.0 | 0.85 | 33 | 輝石安山岩 | 土器 3 |
| | 集石 4号 | M-25 | Ⅷ層上面 | 縄文早期 | 0.5 | 0.43 | 16 | 輝石安山岩 | - |
| | 集石 5号 | N-26・27 | Ⅷ層上面 | 縄文早期 | 0.6 | 0.33 | 16 | 輝石安山岩 | - |
| 14 | 集石 6号 | M-24 | Ⅷ層上面 | 縄文早期 | 1.55 | 1.05 | 21 | 輝石安山岩 | - |
| | 集石 7号 | M-24 | Ⅷ層上面 | 縄文早期 | 0.9 | 0.9 | 41 | 輝石安山岩 | - |
| 15 | 集石 8号 | M-40 | Ⅷ層上面 | 縄文早期 | 2.2 | 2.3 | 27 | 輝石安山岩 | - |

2 出土遺物

縄文時代早期の遺物包含層である乳茶褐色土のⅦ層から出土した遺物は、縄文時代早期前半から後半にかけての土器、あるいはこれらの土器に共伴すると思われる石器である。

当該層はやや硬質で粘性があり、発掘時には掘り上げた土が遺物に付着し、取り上げが困難な状況があった。

(1) 土器

土器は、縄文時代早期前半から早期後半のもので、これらを凶化するにあたり、主にそれぞれの口縁部や胴部の文様などの特徴をふまえてⅠ～ⅩⅠ類に分類した。

各類をこれまでの土器型式にあてはめると、おおよそⅠ類土器が柗ノ原Ⅵ類土器の一部あるいは小牧ⅢA遺跡の第Ⅱ類土器、Ⅱ類土器～Ⅶ類土器が吉田式土器、Ⅷ類土器が石坂式土器、Ⅸ類が下剥峯式土器、Ⅹ類が塞ノ神A式土器、ⅩⅠ類が条痕文土器あるいは右京西式土器に該当する。

Ⅰ類は、口縁部が緩やかに外傾する円筒土器を基本とし、底部は平底となる器形である。文様は、柗ノ原Ⅵ類あるいは小牧ⅢA第Ⅱ類土器では、口唇部に刻みが施されるが、本遺跡から出土した資料は無文である。胴部には貝殻復縁部による横位の刺突文が施されるものと思われ、底部端には縦位の連続刺突文や沈線がめぐらされる。調整は内面に丁寧なナデ整形がみられる。

Ⅱ～Ⅶ類土器は、これまでおおむね吉田式土器と呼ばれているもので、本遺跡で最も多く出土した一群である。器形は、口縁部が緩やかに外傾する円筒形土器を基本とする。底部は平底となる。

主として口縁部の文様からⅤ類に分類したが、胴部には基本的に横位の施文（条痕文や押し引き文あるいはこれらの組み合わせ）が行われていることが共通した特徴である。

これらの吉田式土器のほとんどの口唇部には連続した刻みが施される。口縁部直下には多くの場合、横位の貝殻刺突文が2～3段条施される。さらにその下位にはクサビ形貼付文の変形したもの、あるいはその名残として表現されたと思われる縦位の貝殻刺突文が施されるもの、横位の貝殻刺突文のみが施されるものなどがある。横位の貝殻刺突文を施すタイプには1段、4段のものもみられるがその多くは2～3段のものである。胴部には貝殻復縁部による押し引き文または条痕文が施されている。押し引き文は横位に施されているが、器面上に施文する際の力の入れ具合から文様としては結果的に強弱がつけられているもの、押し引き文と貝殻条痕文と組み合わせでアクセントをつけたものも認められる。また、底部の立ち上がり部分には基本的に縦位の沈線が施され、整形としては内面に丁寧なナデが認められる。

Ⅱ類～Ⅶ類とした吉田式土器を区別する大きなポイントはクサビ形の貼付文状の文様にある。クサビ形貼付文がくずれ、貝殻復縁部によって貼付文が変わるクサビ形の貼付文状の刺突文を施すⅡ類土器、貝殻復縁部による縦位の刺突文が施されるⅢ類土器、爪形文が施されるⅣ類土器、口縁部に横位の貝殻刺突文を2段施した後、その間に斜位の貝殻刺突文を施すⅤ類土器、半裁竹管状の施文具による「C」字状の文様が施されたⅥ類土器というように、吉田式土器の口縁部文様帯の変遷を考える上で貴重な資料が得られた。

Ⅶ類土器は、クサビ形貼付文の名残はほとんどみられず、口縁部文様としては横位の貝殻刺突文が2～5段めぐるのみとなる。

Ⅷ類土器は、小片が多く全形を知り得る資料がないが胴部に縦位や横位の貝殻条痕文が施されるものである。

Ⅸ類土器は、口縁部が緩やかに内傾し、底部は平底である。口縁部には、貝殻背面による押圧文を施し、胴部から底部にかけて貝殻刺突文で飾るもので下剥峯式土器の範疇に含まれるとよばれているものである。器形、文様などから桑ノ丸式土器との近似性を感じさせる。

Ⅹ類土器は、一般的にはほぼ直行する胴部にラッパ状にひろく口縁部をもつものである。口縁部内面に明瞭な稜をもつ。文様は、沈線によって幾何学的な区画文を施し、区画文内に撚糸文を施す。調整は、内面に丁寧なナデ整形がみられる。

ⅩⅠ類土器は、小片のため全体像を知り得ないが、これまでの土器形式でいう小山タイプ・右京西式・条痕文土器とよばれているタイプである。

①Ⅰ類土器（第16図 4～7）

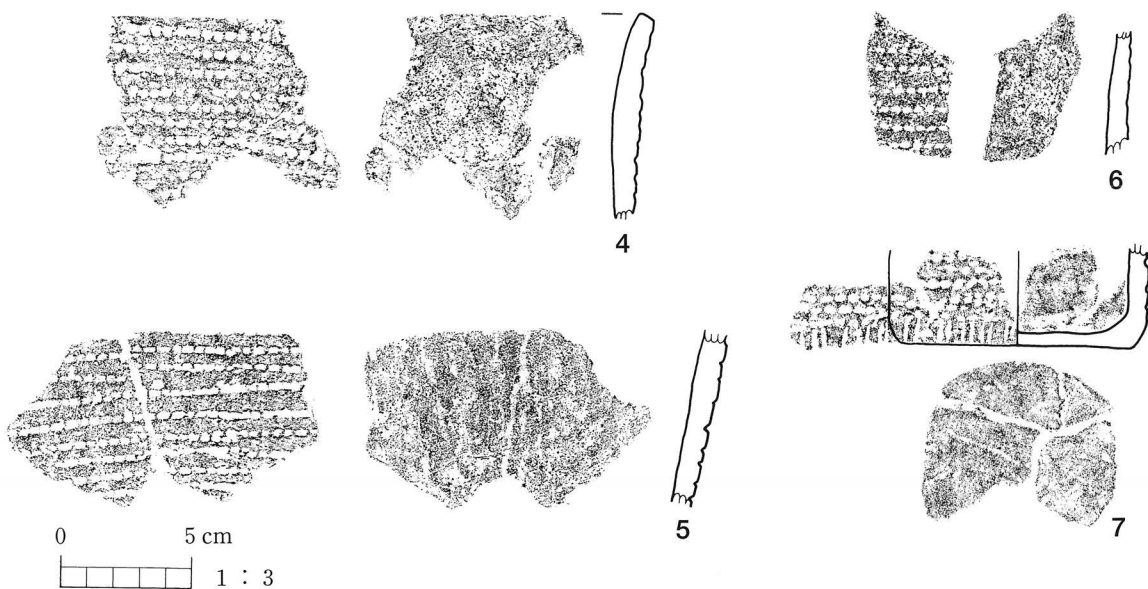
Ⅰ類土器は胴部に横位の貝殻刺突文を施す一群である。

4は口縁部片で、口唇部は無文である。5・6は胴部片である。いずれも外器面には、貝殻復縁部による横位の刺突文が連続して施される。7は底部片で、底部からの立ち上がりに3cm弱の縦位の刻みを連続して密に施している。

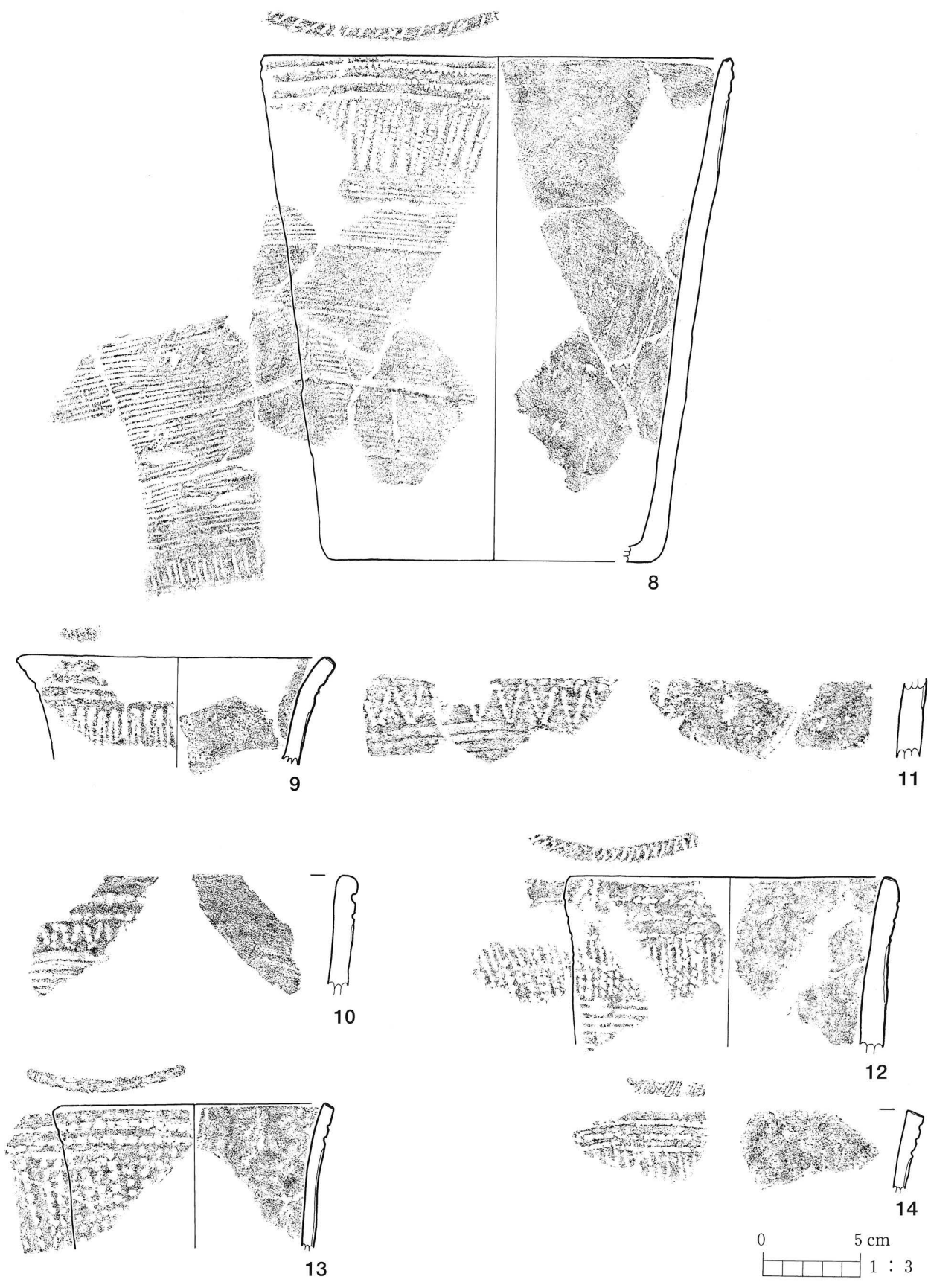
②Ⅱ類土器（第17図 8～11）

Ⅱ類土器は、クサビ形貼付文の形がくずれ、貝殻復縁部によってクサビ形状の貝殻刺突文が連続して施されるものである。

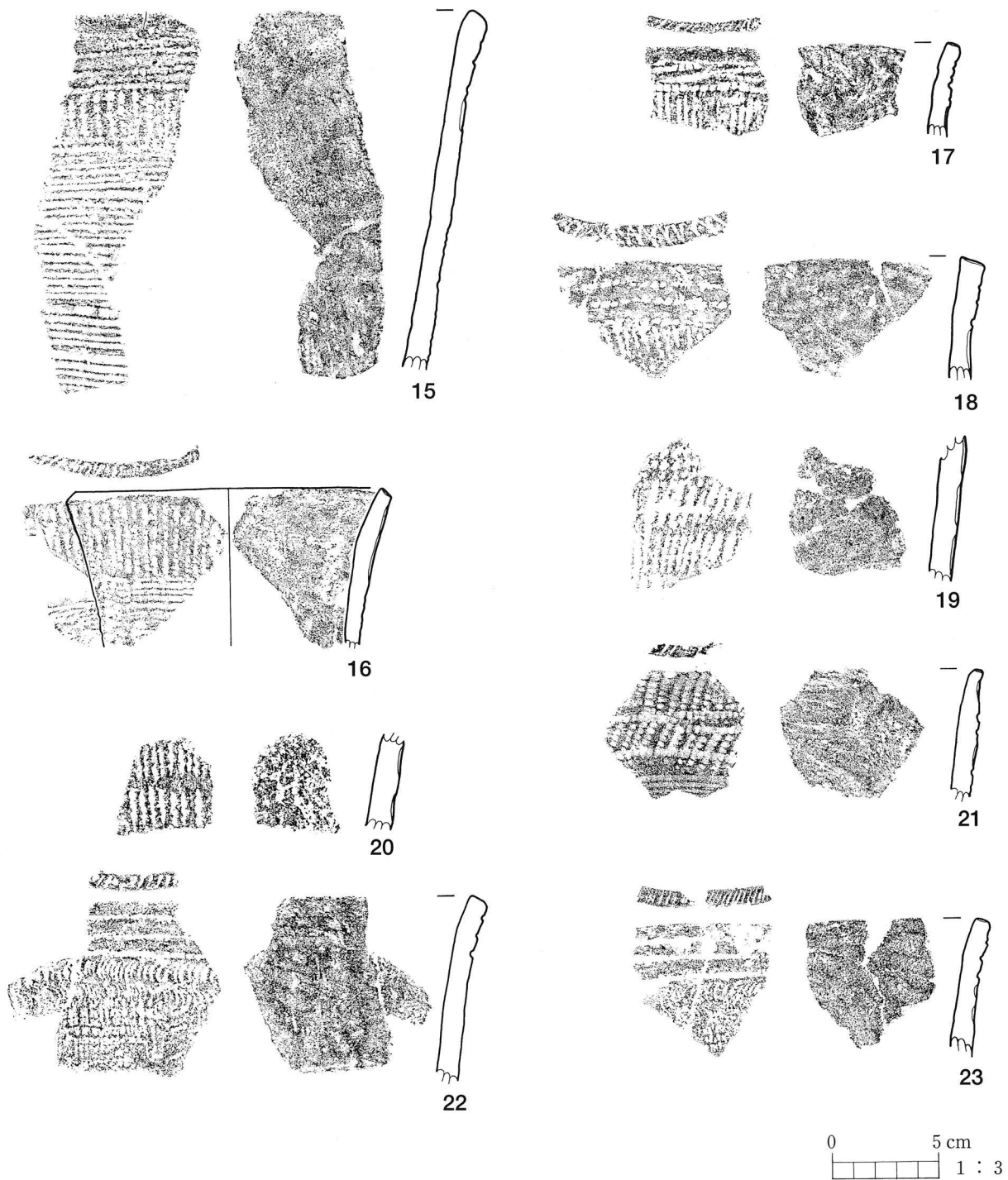
8は完形品で復元口径24.8cm、底径15cm、器高27.2cmを測る。12は復元口径15.8cm、15は復元口径14.7cmを測る。9のクサビ形状の貝殻刺突文は密に施されているが、10・11の刺突文は「V」字



第16図 Ⅶ層出土土器1（Ⅰ類）



第17図 VII層出土土器2 (II・III類)



第18図 VII層出土土器3 (Ⅲ・Ⅳ類)

形にひらいており、かなりクサビ形を意識した施文であることが読みとれる。10は口唇部が無文で、口縁部のクサビ形状の刺突文は短く施されている。

③Ⅲ類土器 (第17図 12~14・第18図 15~21)

Ⅲ類土器は、口縁部に横位の貝殻刺突文が3段施され、その下位に、クサビ形の貝殻刺突文がく

ずれ、貝殻復縁部による縦位の密な刺突文が連続して施されるものである。15・16のように胴部文様は貝殻条痕文である。16は口縁部に横位の貝殻刺突文が施されないものである。

④Ⅳ類土器（第18図 22～23）

Ⅳ類土器は、口縁部下の文様帯に横位の貝殻刺突文を3段施し、その直下に爪形文を施すタイプである。22は、爪形文の方向が1段目が「C」字状、2段目は逆「C」字状に施されている。

⑤Ⅴ類土器（第19図 24～26）

Ⅴ類土器は、口縁部に横位に2段の貝殻刺突文を施し、その間に斜位の貝殻刺突文を施すタイプである。胴部文様は貝殻条痕文である。24は口唇部のキザミ目がないものである。復元口径21.5cm、を測る。

⑥Ⅵ類土器（第19図 27～33）

Ⅵ類土器は、口縁部下の文様帯に半裁竹管状の施文具による「C」字状の刺突文が施されているタイプである。27は復元口径が15.3cm、28が12.9cmを測る。28は口唇部直下に「C」字状の刺突文が少なくとも3段施されている。31は口唇部直下に横位の貝殻刺突文がみられないものである。

32は口縁部上位と下位に横位の貝殻刺突文が2段ずつ施され、その間に貝殻の肋と思われる施文具で刺突文が施されるものである。胴部には条痕文あるいは押し引き文が施された後、ナデによる調整が行われている。

⑦Ⅶ類土器（第20図 34～41・第21図 42～54）

Ⅶ類土器は、クサビ形状の貝殻刺突文が消え、口縁部に横位の貝殻刺突文が3段、胴部には貝殻復縁部による押し引き文あるいは条痕文の組み合わせによって文様が構成されている一群である。

34は復元口径19.5cm、器高21.6cm、底径15.4cmを測る。底部からの立ち上がりに連続して施される沈線は底部の接地面付近にみられる。35は復元口径24.3cm、36は18.9cm、39は16cmを測る。

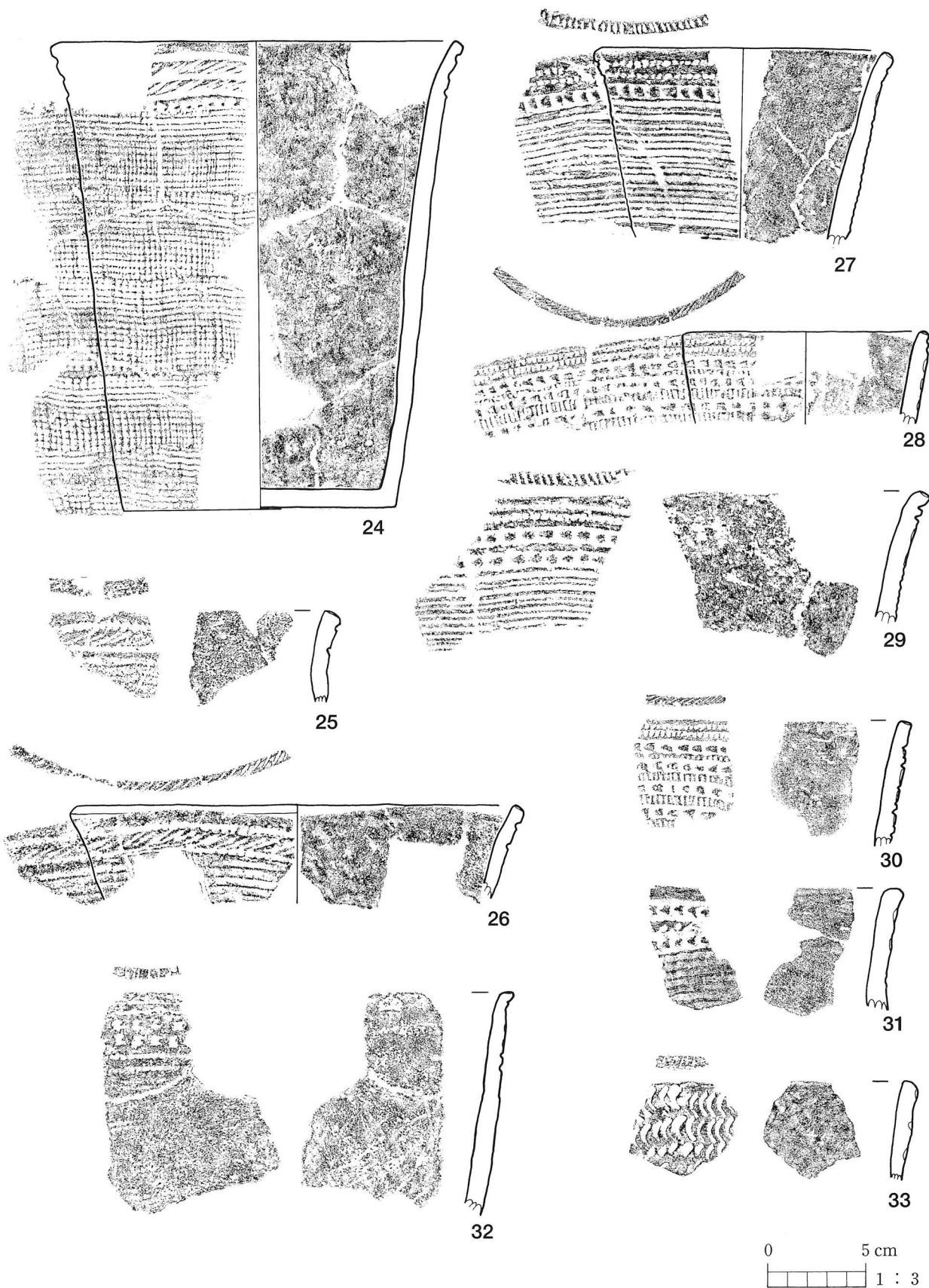
41は口縁部に横位の貝殻刺突文がなく、器面全体に押し引き文だけが施されるものと思われる。口唇部は丸みを帯び無文である。35・39・41は口縁部端が丸みを帯びる。

⑧胴部・底部（第22図 55～67・第23図 68・70～77）

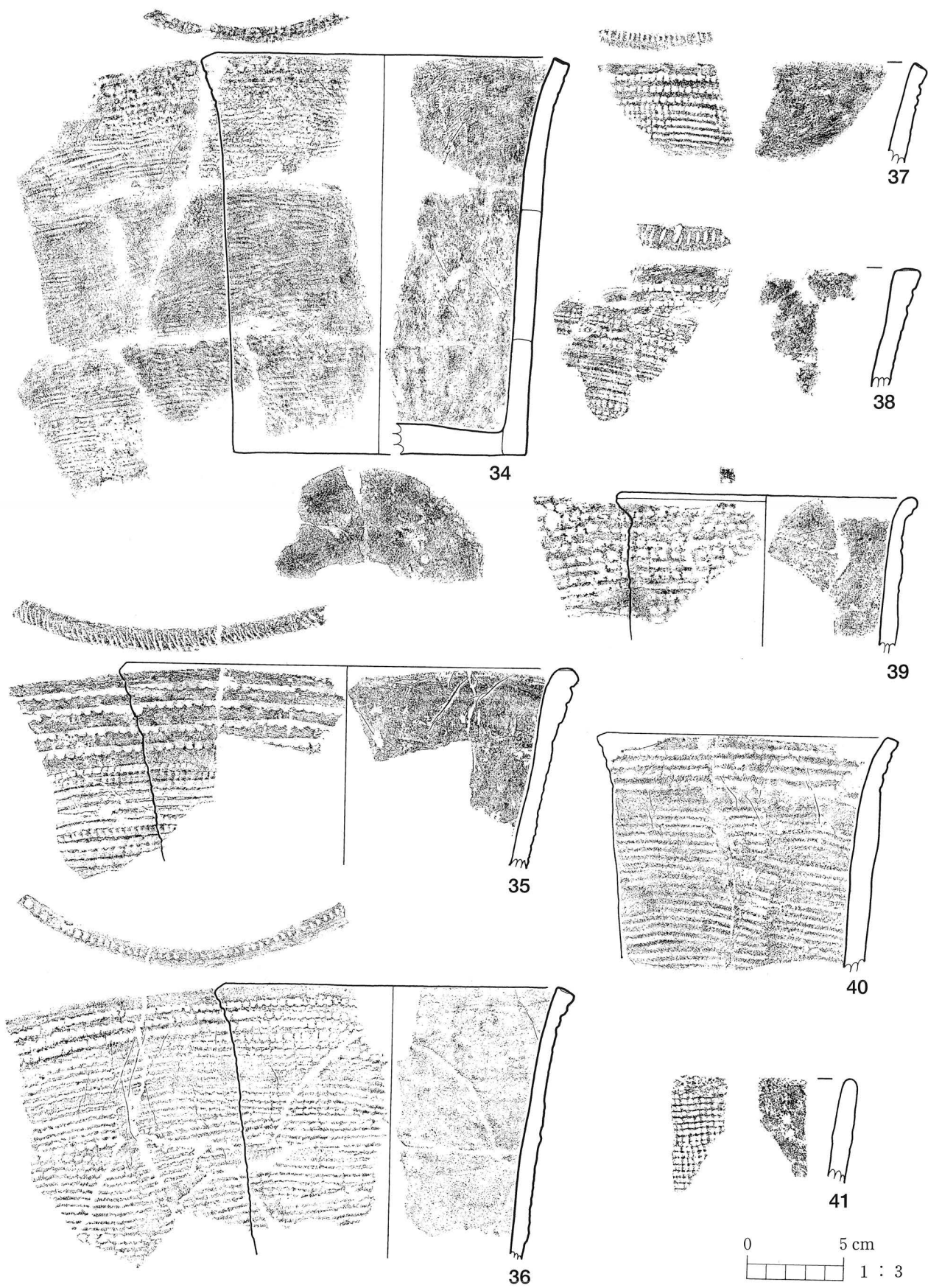
Ⅱ～Ⅶ類の胴部や底部と思われるものである。55・57・58・61は胴部外面に貝殻復縁部による押し引き文、56・59～61は押し引き文と条痕文が組み合わされているものである。62～67横位の貝殻条痕文が施される。底部は68・70・71・73～76の底部は立ち上がり付近に縦位の刻み目が施され、72・77は刻み目がみられないものである。

⑨Ⅷ類土器（第23図 69・第24図 81・85）

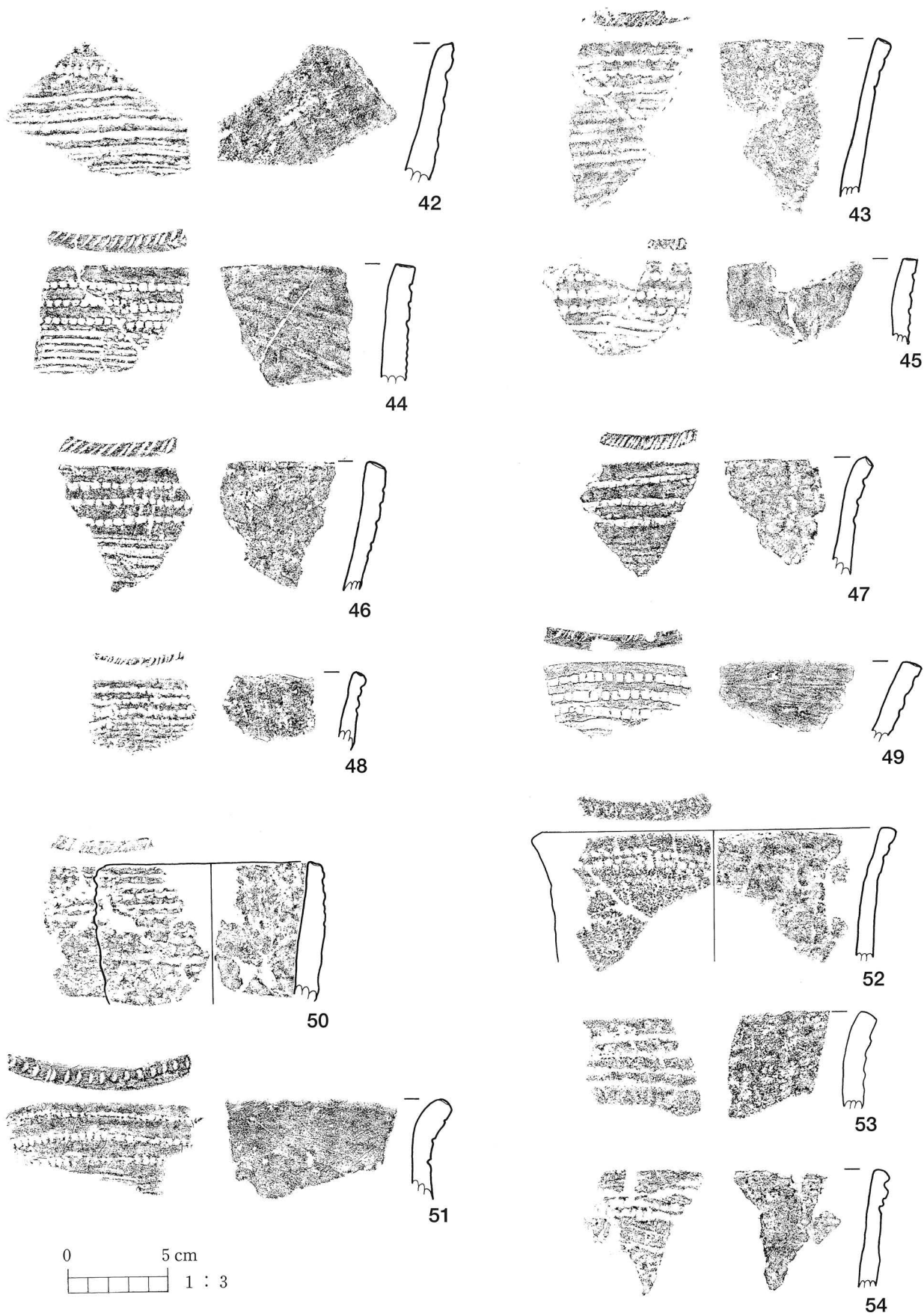
Ⅷ類土器は、胴部に縦位や底部付近の胴部に横位の貝殻条痕文が施されるものである。



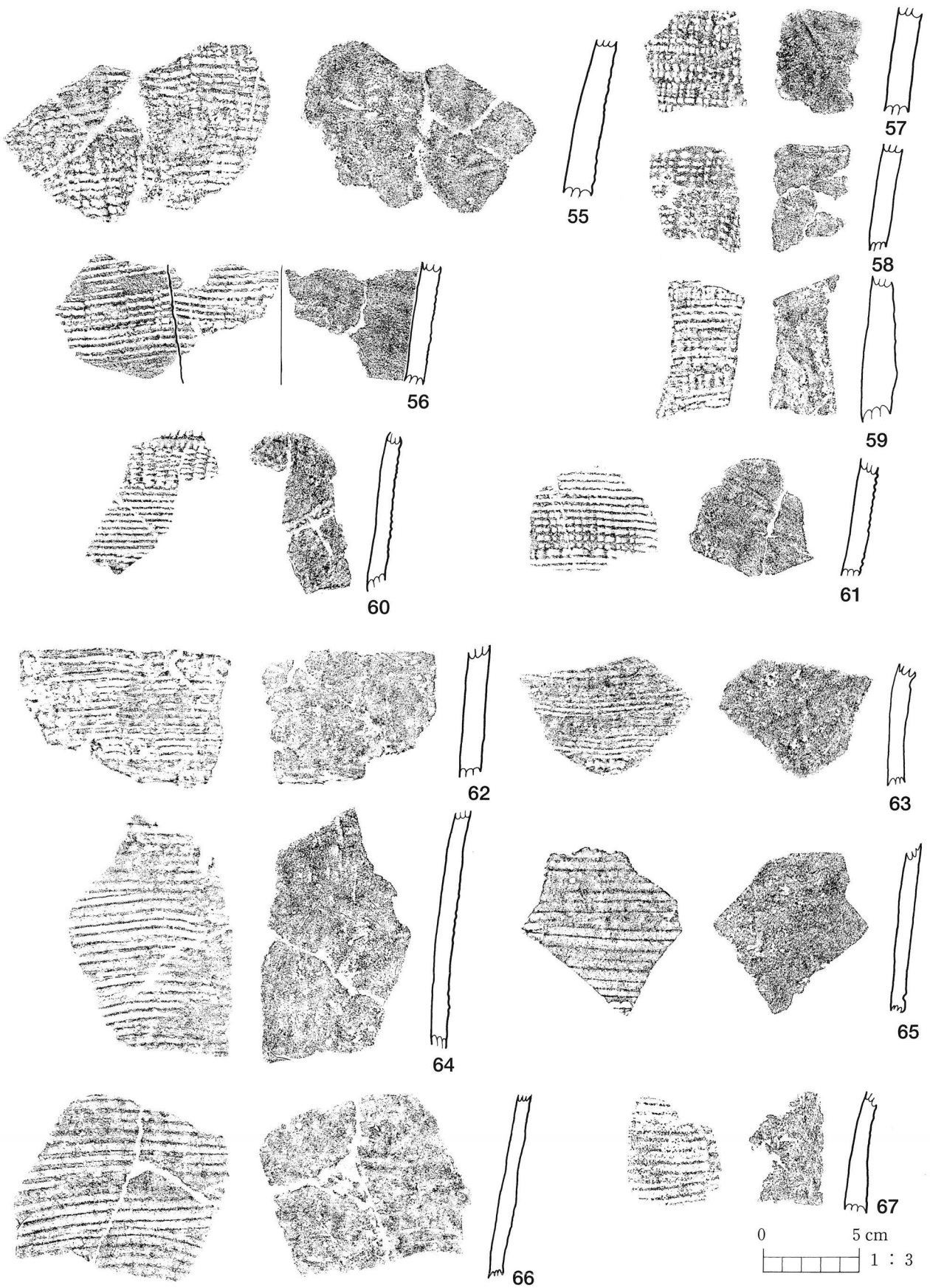
第19图 VII層出土土器4 (V·VI類)



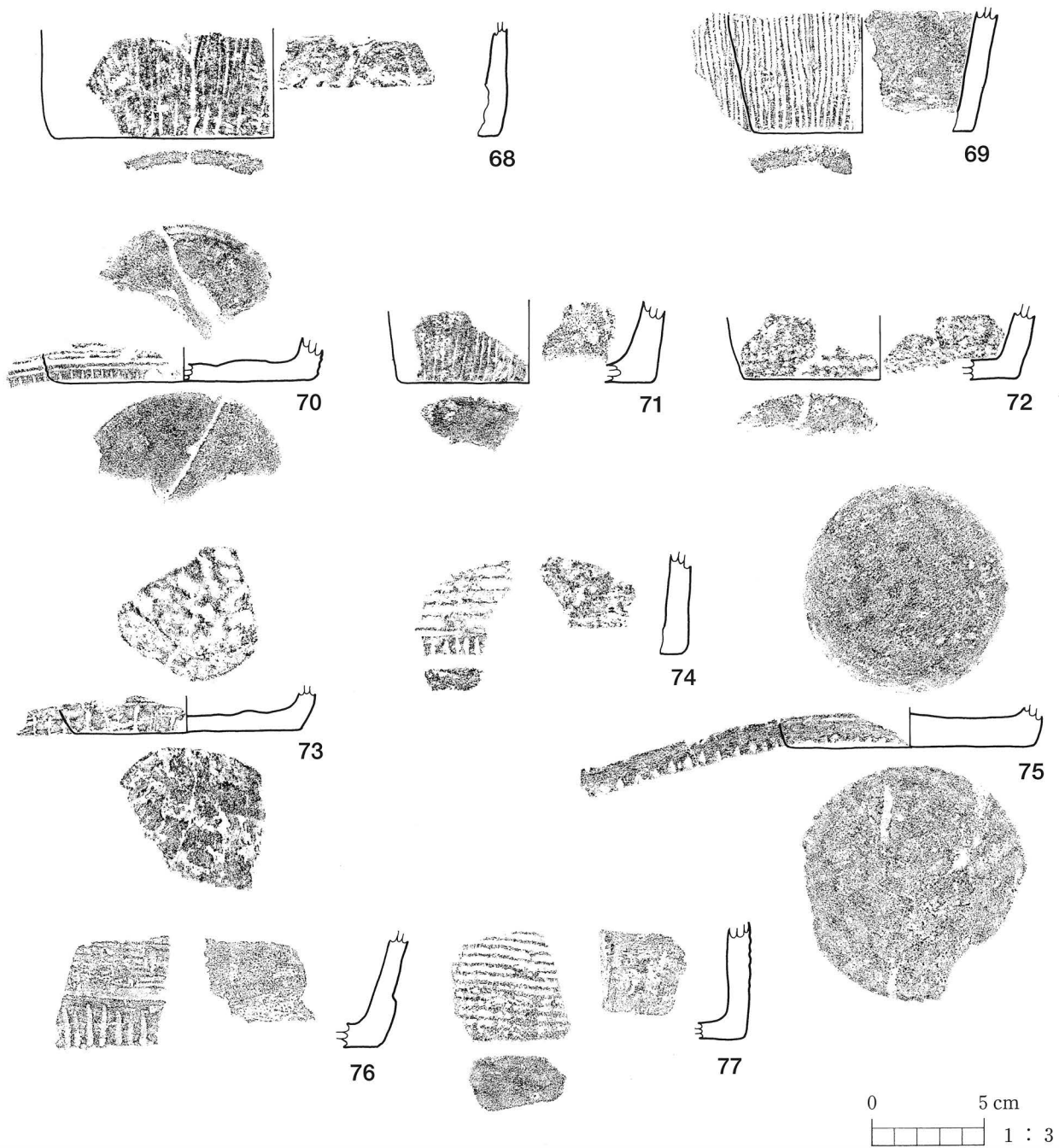
第20图 VII層出土土器5 (VII類)



第21図 VII層出土土器6 (VII類)



第22图 VII层出土土器7 (胴部)



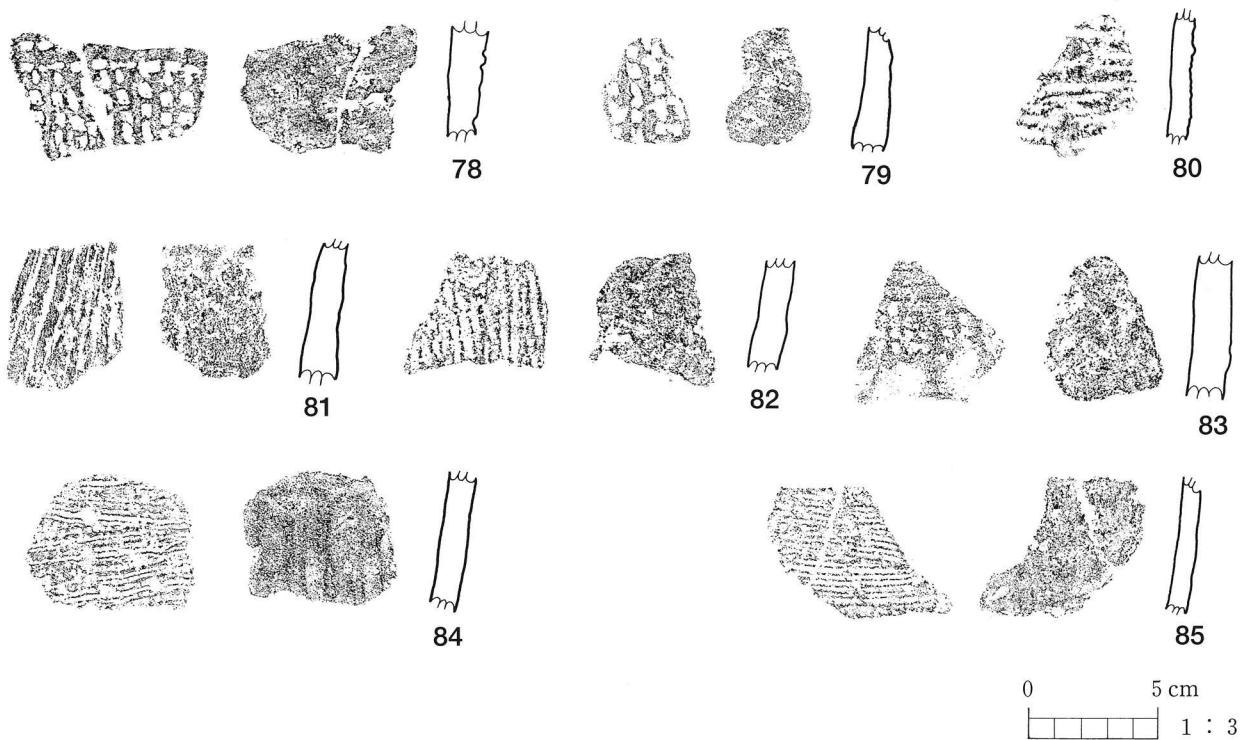
第23図 VII層出土土器 8 (底部)

⑩ IX類土器 (第25図 86~88)

IX類土器は、胴部に貝殻復縁部による貝殻刺突文が施されるもので、下剥峯式土器とよばれているものに該当する。

86は復元口径25.3 cm、器高29.9 cmを測る。口縁部が内傾し、口唇部は平坦となる。口縁部に貝殻背面で押圧文が施され、口縁部以下の胴部には貝殻復縁部による鋸歯状の刺突文が連続して施される。

87は口縁部で口唇部は無文で端部は丸くおさまる。器面に縦位の貝殻刺突文が施される。88は胴



第24図 VII層出土土器 9

部片で貝殻刺突文がみられる。

⑪ X類土器 (第25図 91~92)

91は口縁部が緩やかに外反し、肥厚する口縁部内側には明瞭な稜を形成する。口唇部付近に刻み目が施され、胴部には沈線によって区画文が描かれる、区画文内に撚糸文が施される。塞ノ神A式土器とよばれるものである。

⑫ XI類土器 (第25図 93)

XI類土器は、口縁部がやや外に開く器形で口唇部端は外傾する。胴部に条痕文が施されるものである。



第25図 VII層出土土器10 (Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ類)

(2) 石器

本遺跡から出土した石器は、打製石鏃・磨製石器・石匙・磨製石斧・打製石斧・礫器・磨石・磨
敲石・敲石・石皿などがある。いずれも縄文時代早期の遺物包含層であるⅦ（乳茶褐色土）層から
出土したものである。調査面積や土器の出土量に対して当該期の剥片石器類の出土量は少ない傾向
が認められる。なお、平成9年度の調査区では打製石鏃をはじめとする多くの剥片石器が出土して
いる。

①打製石鏃（第26図 94）

94は黒曜石製の打製石鏃である。頭部、脚部など全体の半分ほどを欠くが、残存部から推定する
と基部に抉りをもつ凹基鏃であると思われる。

②磨製石器（第26図 95）

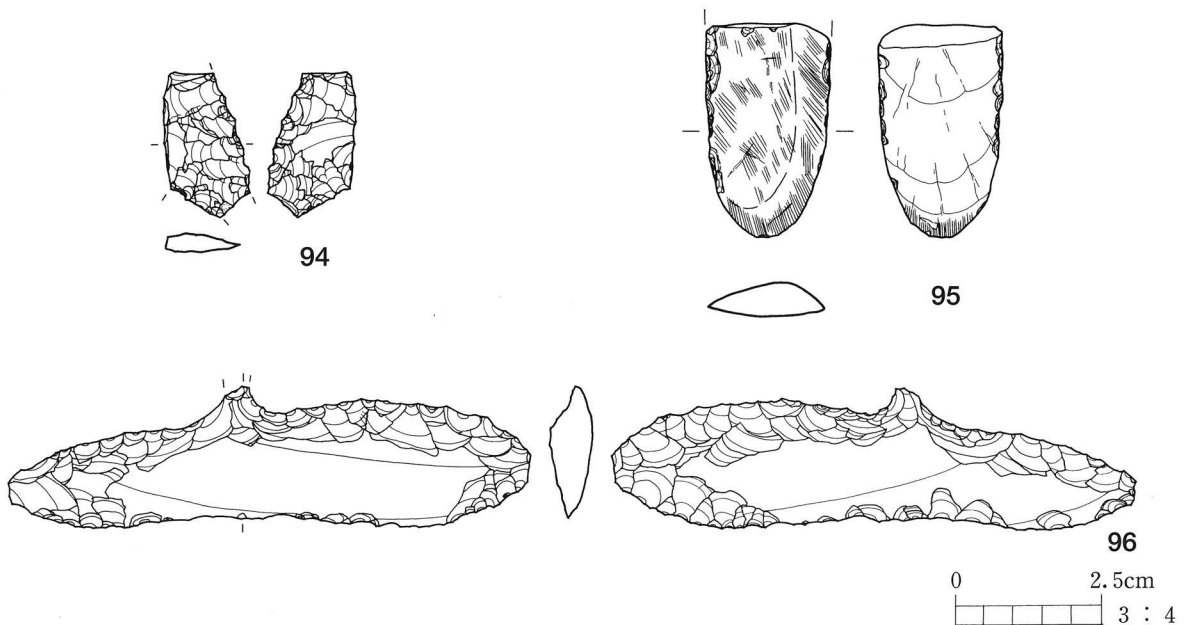
95は磨製石器として分類した。頁岩製で、同様の石材は磨製石斧・打製石斧に多用されている。
表面には全体的に擦痕が顕著に観察されるほか、裏面の先端部にも擦痕が認められる。両側縁は両
面とも微細な剥離痕が観察できる。基部を欠損する。

③石匙（第26図 96）

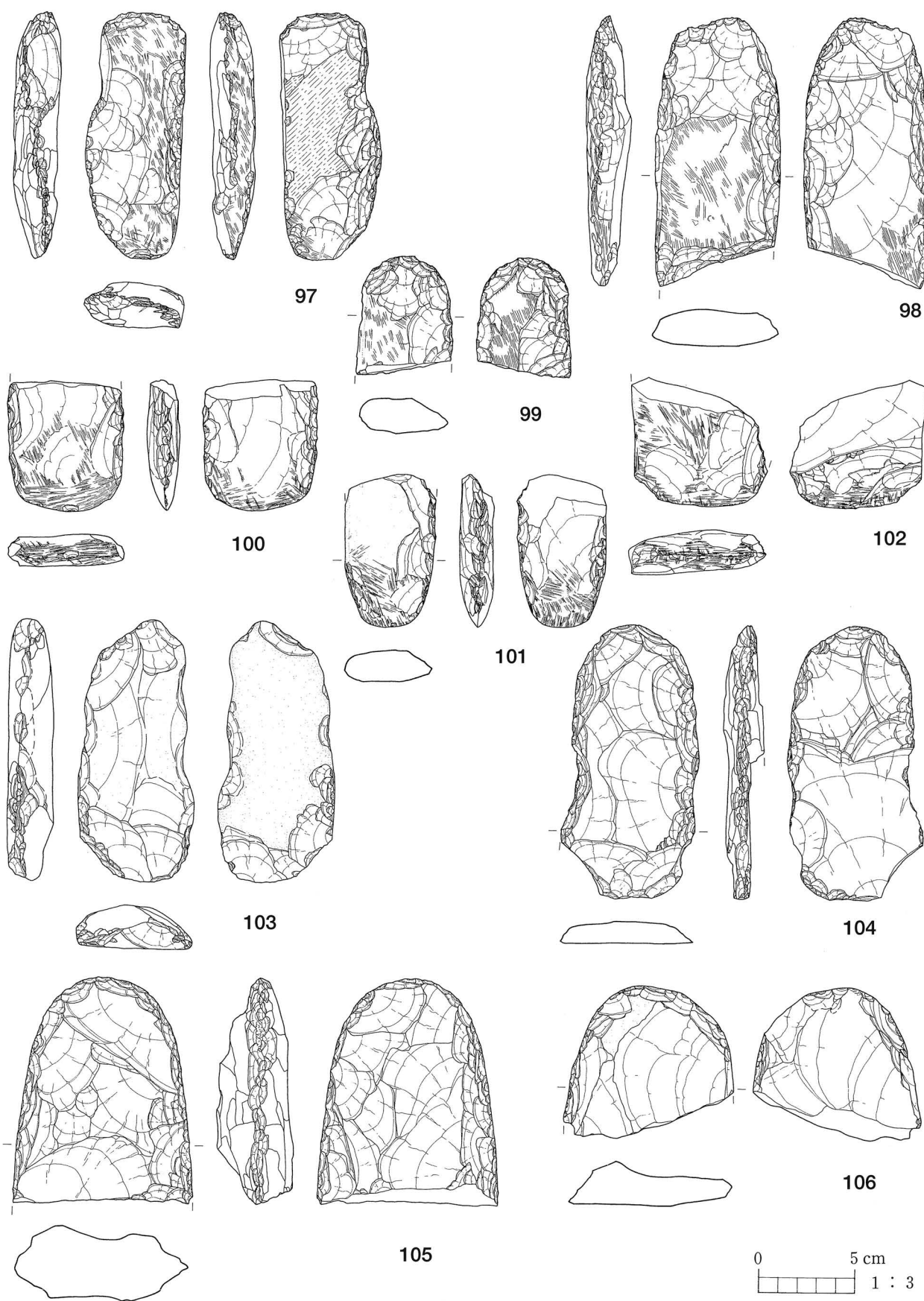
96は、安山岩(サヌカイト)製の石匙である。横長の剥片を素材として利用しており、最大長9.0 c
mを測る。つまみ部を欠損する。

④磨製石斧（第27図 97～102）

磨製石斧は、6点を図化し掲載した。これらは刃部や側面など一部を研磨した局部磨製石斧であ
る。石材はいずれも頁岩を利用している。97は刃部を丁寧に研磨している。98は横長の剥片を利用
したもので、刃部は欠損している。表裏面および側面の一部に研磨痕が観察できる。98～99は基部
～胴部、100～102は刃部片である。



第26図 Ⅶ層出土石器 1



第27图 VII层出土石器 2